京城日報
十九日夕刊

發行所　京城太平通一丁目　合資會社　京城日報社
電話番號　編輯局三四五番　營業局三六番　振替貯金口座京城三〇〇番
發行兼編輯人　奧田直毅
印刷人　小川三之介
定價　一部金二錢五厘　一ヶ月金五十五錢

支那の形勢

○各督軍解散を主張

入京中の各督軍は他に國會の解散を主張し若し要求にして聽かれずんば連袂辭職を請ふ可き氣勢あり北京政界は益々混沌を極む（上海電報）

○宣戰案討議延期乎

衆議院に於ける十九日の對獨宣戰案討議は多分延期さるべし（北京電報）

○徐氏內閣讓受拒避

徐世昌氏は段總理の內閣讓渡の交渉に對し之を拒避しつゝあり（上海電報）

○獨逸宰相演說要領

獨逸宰相ベートマン、ホールウェッヒ氏の十五日議會に於ける演說要領左の如し（東京特電）

一、今日戰爭の目的を說明するは國家の爲め不利益なり一般方針は從前と異る事なし和平問題に就き聯合國政府の間に間隔を生ぜりとの浮說は全く誤謬なり

二、戰爭の目的は二年前と異なりなし英佛の意見にして變るなき以上獨逸も亦變更の必要を見ず從て聯合國の政策に贊同せざると共に保守の方針にも左袒せず

三、露國は從來の要求を放棄せる如くあるも聯合國は是を悅ばざる如し露國にして獨逸との親密關係を希望せば獨逸は之に對して考慮を加ふべし

四、西部戰線の戰況は有利に進行し潛水艇戰の效果大に良好なり

五、中立諸國は幸福なり然れ共西班牙の如きは完全に嚴正中立を保持し考ふる所あるべし

○英軍ブルクール占領

英軍はブルクールを占領せり（倫敦電報）

○追加豫算

總額一億三千萬圓

十八日の閣議に上程せる大正六年度追加豫算は各省要求額に對し大藏省主計局にては急設を要する經費のみを認むる方針にて査定を加へ普通費の要求額中約六百萬圓を削減したるも閣議にて多少復活したるを以て特別議會に提出すべき六年度追加豫算は結局次の如く決定せり

歲出經常部四千五十萬圓臨時部四千七百七十萬圓合計八千八百二十萬圓の外臨時事件に關する經費四千九百九十萬圓總計一億三千八百十萬圓にして之れを支辨する歲入は一般の歲入と臨時收入に伴ふ歲入と實行豫算上の剩餘金と四年度國庫剩餘金約三千七百萬圓となり實行豫算及追加豫算の合計を以て六年度不成立豫算額と比較すれば普通歲入に於て四百八十萬圓を減じ臨時事件の經費に於て二千三百萬圓を增加し差引全體にて千八百二十萬圓を增加せり追加豫算にて認めたる重要なる事項は新潟、鹽釜港灣修築費、御物川以下修築費、神戶、大阪稅關修築費、國債整理基金繰入增加國庫豫備金、航空隊、機關銃隊、山砲隊準備費、五兵器製造所新設費、五軍艦製造費、名古屋控訴院松山監獄建築費、神奈川、廣島、熊本、高等工業學校創立確定費、製鐵所擴張費等なり（東京特電）

○兵器支廠費

十八日の內閣會議に於て決定せる追加豫算には陸軍省兵器製造所新設費大正六年度年割額二百萬圓を含み而して兵器支廠設置地は朝鮮也（東京特電）

○下院書記官長更迭

岡崎衆議院書記官長は豫てより心臟病を患ひ居りしが靜養の必要あるより今回職を辭する事となり十九日左の如く更迭ありたり（東京特電）

任衆議院書記官長（二等）　衆議院書記官　寺田榮
衆議院書記官長　岡崎國臣
休職被仰付

○御慰問使動靜

國境部隊の視察を遂げたる御慰問使内山大將は十八日夜清津に歸着せしが廿日宮島丸にて出發すべし（清津特電）

○山梨中將通過

山梨中將は十八日夜宮島丸にて清津著十九日羅南に向へり（清津特電）

○平塚檢查官著發

平塚會計檢查官は十八日夜清津著十九日羅南へ向け出發せり（清津特電）

○支那選手通過

豫て東京に於て開催せし極東オリンピック大會へ出席せし支那選手六十七名は歸國の途十九日午前九時入津關釜連絡船新羅丸より釜山に上陸市內遊覽の上同日午後十一時發北行列車にて歸國の途に就く（釜山特電）

◉總督邸午餐會

長谷川總督は既記の如く十九日正午より監獄監督官會議列席者を官邸に招待午餐の饗應を爲せり、總督府側よりは山縣政務總監、國分司法部長官、荻田總務局長、釜屋、高橋兩武官、深澤監獄課長、遠藤秘書課長、神田秘書官等列席せり

◉上半貿易

貿易總額七百九十萬五千餘圓
入超百十萬八千餘圓＝本年累計額五千七百六十二萬餘圓

▲出入の狀況　五月上半の朝鮮貿易は輸移出品價三百四萬三千餘圓、輸移入品價四百十五萬二千餘圓、合計七百十九萬五千餘圓にして之を前年同期に比すれば輸移出に於て九十八萬七千餘圓を增加せるも輸移入に於て亦百四十四萬五千餘圓を激增せるを以て貿易の權衡は前年同期の入超六十五萬餘圓なりしに比し百十萬八千餘圓の入超を告ぐるに至れり

▲貿易累計額　次ぎに一月以降の累計額は輸移出二千六百六十二萬九千餘圓、輸移入三千九十九萬六千餘圓、合計五千七百六十二萬五千餘圓を算し、前年同期に比すると輸移出に於て八百八十四萬一千餘圓、輸移入に於て七百七十萬八千餘圓の共に增進を見、又た貿易の權衡は四百三十六萬六千餘圓の入超にして前年同期に比し百十三萬三千餘圓を增加せり

▲出入重要品　今五月上半並に一月以降累計額に依る出入重要品を示せば左の如し

輸移出重要品（圓）

品名	本月上半	一月以降累計
米	一、二七九、三三八	[illegible]
[illegible]	四九五、八八一	[illegible]
豆類	五二、八八五	四八五、八二六
[illegible]	一、五二一	[illegible]
花	三四、三四一	一、七七三、七四〇
鐵鑛及沙鐵	二二、七三九	[illegible]
[illegible]	一三、四六六	[illegible]
[illegible]	九七、四二〇	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]
金銀[illegible]	[illegible]	[illegible]
牛皮	[illegible]	[illegible]
生牛	[illegible]	[illegible]
肥料	[illegible]	[illegible]

輸移入重要品（圓）

品名	本月上半	一月以降累計
小麥粉	[illegible]	[illegible]
食鹽	[illegible]	[illegible]
鹽魚	[illegible]	[illegible]
砂糖	[illegible]	[illegible]
酒	[illegible]	[illegible]
[illegible]類	[illegible]	[illegible]
石油	[illegible]	[illegible]
綿絲	[illegible]	[illegible]
綿[illegible]類	[illegible]	[illegible]
生金巾	[illegible]	[illegible]
晒金巾	[illegible]	[illegible]
天竺[illegible]	[illegible]	[illegible]
綿[illegible]	[illegible]	[illegible]
日本[illegible]	[illegible]	[illegible]
支那[illegible]	[illegible]	[illegible]
毛織物	[illegible]	[illegible]
絹織物	[illegible]	[illegible]
紙	[illegible]	[illegible]
熟鐵	[illegible]	[illegible]
鐵道材料及同附屬品	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]
煙草	[illegible]	[illegible]
生皮及熟皮	[illegible]	[illegible]
石炭	[illegible]	[illegible]
木材及板	[illegible]	[illegible]
セメント	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]
マッチ	[illegible]	[illegible]

□御眞影拜戴式

總督府にては十九日午前八時三十分より第一會議室に於て今回御下賜あらせられたる御眞影拜戴式を擧行せり、當日は長谷川總督、山縣政務總監以下本府高等官全部參列、荻田總務局長の除幕にて總督御眞影前に進み最敬禮を行ひ次いで一同拜敬禮あり、了つて同局長垂幕、九時終了一同退出せり

▲出入金銀高　尙ほ五月上半に於ける金銀貨並に金銀地金の出入高は出金高三十二萬三千餘圓、銀五千餘圓、計三十二萬八千餘圓、入高四千餘圓、銀九千餘圓、計一萬三千餘圓にして三十一萬四千餘圓の出超を數へ又た一月以降の累計額は出高金二百八十七萬餘圓、銀一萬八千餘圓計二百八十八萬八千餘圓、入高四萬七千餘圓、銀十二萬八千餘圓計十七萬六千餘圓にして結局二百七十一萬二千餘圓の入超を算せり

◉鮮銀總裁出發

美濃部鮮銀總裁は豫報の如く十九日午前九時三十分南大門驛發列車にて出に向ひたるが同地の披露宴に臨み市中視察の上二十日午後十一時四十分著列車にて歸京すべく隨員は井內調查局長兼秘書役なり

◉石塚總裁等動靜

十五日東上の途に就きし石塚東拓總裁、[illegible]理事の一行は下の關に一泊し十八日午後一時三十分東京驛著の旨會社に電報ありしと

◉英植物學者入京

英國植物學者イー、エッチ、ウヰルソン氏は朝鮮に於ける植物研究の爲め十八日朝入港連絡船高麗丸にて來釜同十時三十分發列車にて京城へ向け出發せり（釜山）

▲同氏は十八日夜入京朝鮮ホテルに投宿せり

◉右近氏來鮮

大阪の資產家にして朝鮮の事業に關係多き右近權左衛門氏は支配人早瀨寬二氏を隨へ十七日大阪出發滿鮮旅行の途に就く旨或る筋へ通報ありしが入京は十九日午後九時なるべしと

◉培材校生徒歸京

貞洞培材學堂職員生徒三百四十五名は十八日朝開城に修學旅行を爲し同日午後七時三十分著歸京せり

◉在米不足

消費の大激增か　正米稀有の高値

最近朝鮮に於ける正米はヂリ高の商狀を呈し十八日京城に於ける最上玄米は石十五圓八十錢てう近年

▲稀なる高値　を唱へ之れを本年の底値に對比すれば三圓方の暴騰にて小賣の如き上白石十九圓を唱ふるに至り居れり又た群山釜山米穀市場の如き正米の不足甚しきものあり數日前の群山正米相場は之れを大阪相場に比し石一圓高を見るの奇現象を呈したるが其の原因何處にあるやと云ふに諸種の說あれど要するに鮮內の在米不足其の主なるものゝ如し現に最も大手筋たる東洋拓殖會社の如きは其の所藏米全部を放賣し居り又鮮米の本場たる全北內地人各農場並に黃海道方面も其の貯米の手薄なるは爭ふ可からず唯南鮮一帶に於ける鮮人地主中には先高を見越せる買惜しみより相當纏まりたる在米ありと云へど其の實否は俄に判ずべからず要するに朝鮮內に於ける在米不足は爭ふべからざる事實にて

▲米價の前途　は一般の強味を有し此の狀勢にては既に夙く南鮮地方に內地米の逆輸入を見るべしとの說を出し居る位なり然るに當局の調查による朝鮮昨秋の米穀收穫高は一千二百五十三萬石にて前年より一割三分增てう統計を示し居るに何故かく在米不足を唱ふるに至りしか其の消息に通じたる者の說によれば昨年來の鮮米內地移出は未だ百萬石に達せず之れを前年に較ぶれば必らずしも激增せりと見る可からず又露領方面に向けては若干增加の理なれども之れ亦多くも十萬石を超ゆるべし又滿洲輸出米も目立ちて增加せる形跡なきより見れば之等輸移出米の總額を昨秋の在米より差引くも僅々一割弱に過ぎざるなり然るに早くも鮮米不足を唱するに至れるは何程か

▲豪農者の驅引　もあらんが要するに鮮內に於ける消費米の大激增によると斷ぜざる可らず何故に消費米の大激增を見たるかは予等も輕々に云ひ難きが鮮人の生活に若干の餘裕を生じたる事米價下値當時より喰ひ慣れし米食の容易に離れ難きもののある等も亦其の一因を爲さずや、或は一部に於て當局の米穀收穫調查に疑ひを存し居れど昨年の作柄は一千二百萬石の收穫を證するに十分なりき云々

◉司令官邸午餐會

秋山軍司令官は十九日正午官邸に京城新聞通信社長等十名を招待し午餐會を開きたるが席上大將の挨拶阿部本社長の答辭ありたり

◉鮮銀の視察團招待

朝鮮銀行にては十八日午後七時より入京中の間島視察團を朝鮮ホテルに招待し晩餐會を催したるが席上美濃部總裁の挨拶李團長の答辭あり歡談の裡に九時過散會せり

◉東拓の視察團饗應

東洋拓殖會社にては十九日正午間島視察團の爲め社內食堂にて午餐を饗應し川上理事の挨拶ありたりと

◉仁川選擧形勢

大勢略定まる

一時激烈なる白兵戰を演じたる仁川組合議員選擧も十八日にて大勢略定まりたるを以て十九二十日の兩日は地盤擁護と切崩しの競合に暗鬪を演ず可く選擧戰も稍鎭靜の觀あり松田耕作氏は組合經營困難の折柄組合費負擔の輕減は

▲刻下の急務　なりてふ政見發表書を配布したるも多少運れの氣味にて他の地盤に蠶食する事を得ず一時悲觀の狀態に陷りしが時日切迫と共に三十數票は確實に手中に收め得たりとなし樂觀的態度を持し居る由川添三次氏は鹿兒島縣人會有志及び運送組合員其他の方面に

▲確乎たる地盤　を有し居るを以つて平山、淺氏等と共に極て優勢なり谷野氏は、本據たる稅關を[illegible]田、川添其他の方面より衝かるゝ虞あるを以て此の方面の防戰をさく怠り無く觀測所電氣會社方面にも手を延ばし更らに十八日夜は山口縣人會評議員會を開き同會にては幹部全體が氏を後援する事となりたる等

▲侮り難き　勢を示し居れり美濃谷氏は斷然運動せず併し乍ら市民の興望を擔ひたる場合は辭せずとの斷言の下に立會人として選任されたるも其後各候補者及び有權者側にては美濃谷氏が運動に著手し居らざる事は眞實なるも周圍に於て氏の當選を期し激烈に運動し居る以上立會人たるは

▲不都合なり　と[illegible]く者あり當局に於ても一旦選任したる者を取消得ざる事情あるを以て今更ら奈何ともし難しとて市中の風評に顧慮を痛め居る模樣なるが美濃谷氏が當選するも、議員たる事を辭するか、議員たらんとする志望ある以上立會人たる事を辭するかは一に氏の從義心に俟つの外なしと言ひ居る者尠からず、茂木氏は醬油組合より熱心に推選されたると松林里に地盤あるを以て當選疑ひ無かる可く觀測さる和田友太郎氏は

▲意外の方面　に人氣を得居る模樣にて某所より豫期せざる入票を蒐集し得たるより意氣大いに昂り更らに運動の手を擴げ其の結果中位以上の成績を占め得べしと揚言し[illegible]井氏は自ら運動に從事し其の努力には人々感動し居れり、加來氏は時日切迫と共に益々有勢となりたる者の如く、同氏は初め形勢危く見ねたりし場合も悠々として

▲何等動ずる色　無かりしは人物の大を證明する所以なりとて昨今に至り有力なる心服者現はれ熱心に運動に從事し居れりと（仁川）

□間の惡き一日

備前線車中　山崎生

○十四日小原長官、中村技師の一行と同行歸京すべき豫定を一日延して滯在す。木浦市中も記念會の後は大風の過ぎたる後の如く靜まりたれば悠るく棉話にても聞かんと欲したるなり。豈圖らんや例の木浦紡績の內地資本代表者が前夜到著したりとかにて、重なる人々は此日却つて繁忙ならんとは間の惡きことなり。豫め斯くと知らば今朝歸途に就く可かりしを、されど遲かりし。○間の惡き一日に於て、午前は日本棉花の大澤氏、午後は元老の一人木村健夫氏、橋本府尹等を歷訪し木浦談、棉談を聞き得たるは望外の幸福なりき。大澤氏は見るからに事務家なり、略々として語るところは皆是れ棉。木村氏は前の商議會頭たり、紡績工場の設立は數年前より同氏等の主唱せるところと聞く、今や漸く機運も熟して實現近きに在りといふ切に健在を祈る。橋本府尹に至りては今更敢て贅せざるべし。○棉の外に木浦に名物あり、木浦自慢の名物なり。名物とは公立小學校にして先年の共進會にて賞牌を與へられ全鮮第一の名譽を荷へり。その話を聞きての故にはあらざれども門外漢の素人目にも、校舍の構造、設備萬端行屆き、用意の周到なるに敬服せしむ。廊下に揭げたる課外資料の中に、日常用品の物價表、種蒔季節表などあるかと思へば、一方には東西古今の英雄、學者、發明家等の偉業を成就したる年齡を表示したるなどあり、凡人敎育、天才敎育など論多き時節柄興味深きを覺ゆ。就中滿蒙の氣候と人類生存の可能範圍とを示して『北へ北へ』と題したる如き最も妙といふべし。精神敎育は乃木式と見ゑ、將軍の肖像が各室に掲げられたり。○同夜は宴會ありて有力者は殆んど出席すとのことなれば、夕食後、夜の景況を見んとて獨り足に任せて市中を散歩す。榮町通りは稍明るけれども、橫町に入れば石に躓かん虞れある程に暗し。海岸通りの如き晝間の雜沓に引換へて一層の寂寞なり。何物も得る所なくして宿に歸る。木浦も此夜が名殘なり。（十六日）

〔仁川〕

▲在鄉軍人會　二十七日高女校室に於て擧行役員改選ある筈

▲雲右衞門來る　桃中軒雲右衞門は十八日來仁十九日より歌舞伎座に於て興行する由

〔大田〕

▲分隊長巡視　大田憲兵分隊長畠山種雄氏は十八日より管內各分遣出張所の民情視察中なるが二十一日迄に全部終了すべし

▲精粟の輸入　本年の麥作は寒害の爲め約半作の見込みなるが爲め米價は昂騰に次ぐに昂騰を以てし殆んど天井知らずの有樣なるが此の機先を見越したる三井物產は盛んに滿洲粟の輸入を計畫し各方面とも種々輸入を見つゝあるが大田に於ても本月十四日南大門發の二十八噸を嚆矢とし近々（四平街、昌圖地方より約四車）の輸入あり尙陸續輸入を見るべし

▲支店敷地購入　漢城銀行大田支店は業務の發展に伴ひ現在の家屋にては狹隘なるを以て近き將來に於て新築工事をなすべく本町一丁目に好個の敷地を買收したる由

▲工事開始期　大田停車場改築敷地工事は二十一日軍隊輸送終了後直ちに著手する筈なるが材料中のバラスは大田、佳水院間大田川の下流より採取すべく既に湖南線の一部より引込み線を新設し十七日よりバラス運搬に著手したり

▲甲斐署長出張　大田警察署長警視甲斐武一氏は新任挨拶の爲め十八日午前七時二十分發列車にて鳥致院を經て公州へ出張せり

〔大邱〕

▲鈴木道長官出張　慶北道長官鈴木隆氏は向ふ五日間の豫定にて聞慶、咸昌、醴泉、安東、義城の各郡狀況視察の爲め十八日出張

▲松本二部長出張　慶北第二部長松本誠氏は出張郡方面視察の爲め道書記川越省三氏を隨へ二十一日頃出張の筈

▲滯納者と選擧權　大邱學校組合にては目下組合費を滯納せるものに對し權力處分中なるが一方組合議員の選擧に當り右滯納處分中のものは例へ有權者と雖も其の權利を停止さすべしと

▲選擧立會人變更　來る二十一日を以て行はるべき大邱學校組合議員選擧當日に於ける立會人とし選定を了したる內有馬高孝氏病氣の爲め戶田六郎氏代つて立會する事となれり

▲大邱市場の擴張　曾て大邱府協議會に於て協定を經たる大邱新市場條例は愈々來る六月初旬を以て發布さるゝと同時に現在の市場區域より約四千坪の擴張を施すべしと

▲鳳德橋工事竣成　大邱府三笠町より達城郡備峴面下洞に通ずる街道に於ける架橋工事は愈々此程其の落成を告ぐると共に鳳德橋と命名されたり

人事消息

▲渡邊仁平氏（釜山地方法院馬山支廳判事）十八日夜入京不知火へ
▲田中健士氏（新義州電氣專務）十九日朝入京同上
▲岩田衛氏（奈良縣內務部長）▲廣田正敏氏（同）同上天眞樓へ
▲小原靖起氏（東京電氣社員）▲野上庭治氏（同）同上
▲遠山爲氏（農工銀行員）十八日朝歸京
▲佐藤欽治郎氏（義州營林廠技師）十八日退京
▲加茂龍二氏（小野田セメント技師）十九日朝退京
▲伊藤彥枝氏（農商務省技師）十八日午後平壤より入京巴城館へ
▲新義州駐在支那領事一行四名　十八日午後入京支那領事館へ

獨探と間違へられる記

一枚の地圖が禍の因―聯隊本部に引立てらる―歐洲旅行に地圖は禁物

遥般の大革命で露國に於ける親獨派は殆んど總て一掃せられたが、獨探は相變らず婦人を利用し支那人を手先に使ひあらゆる奸策を廻らして露軍や露國政府の秘密を探らして居るさらでだに革命後露國上下の

人心は緊張し革命の前局に及ぼす影響いかにと、あやぶまれて居る矢先火事泥的の獨探にとつてはもつけの幸ひ何よりの好期です彼等は多期の休戰状態から醒めた露軍の敗戰を誇大に吹聽し、獨逸飛行船數十艘は近く露都を襲ひ爆彈を投下すべしとか、やれ露都モスコー間の鐵道は獨軍に破壞せられ兩市の交通は斷たるべしなど、いろ〳〵な風説流言のたねをまくので氣早の連中は、フヰンランド方面や、西比利亞方面に

避難する者さへある自分は四月九日遞信省にイワノウヰッチキゼリ氏を訪ふ目的を以てフオンダンカ街の官廳に往くべくリゴフスカヤ街を道にまようたので豫て携帶の露都案内地圖を取擴げ、フオンタンカ街の所在を見出したおかげで飛んだめにあつた、恰度その時自分の側を通つていた一人の露人は怪しげな眼光を輝かせてゐたが彼は忽ち急ぎ足に立去つて其向ふを通行中の勞働者體の男連れに何かさゝやいた、すると彼等は暫く

何處の地圖を持つているかと尋問を發した、そして自分が日本人であり且これ〳〵だと云ふも聽かず旅行劵を所持するやと迫る(露西亞にては外國人は勿論露國臣民とても始終旅行劵或は身許證明書所持を要す)今手元に無けれども予の投宿する旅館に預けてあると答へたが彼等は益々怪しみの眼を光らすのみである兎角する中多數の通行人は自分の

周圍に黑山を築いた獨探々々と叫び出す者さへあつて他の有象無象迄がこれに雷同して騷ぎ出した暫らくすると著劍せる二名の兵士がやつて來て自分の手にせる地圖を取上げ、セメノフスキー聯隊本部迄同行せよと迫る、自分は『日本人小田榮』と云ふ露文の名刺を呈示し此の間違ひの次第を彼等に辯解したが兎角無理やりに聯隊本部に引立てた、從來『我は日本人なり』との一言の下に大概の難關は無事に通過し得たが此の場合民衆は騷ぎ立てる智識階級らしい人は居ず加之

手帳旅行劵は手元に所持せず如何に辯護しても地圖が基で獨探たるの嫌疑は免れなかつた、もうこうなると絶體絶命、無理に反抗せんか發砲さるゝの虞れがある、無論實際の獨探ならんか其日早速銃彈の洗禮を受けるのは明らかだが本部迄行けば此の嫌疑は立どころに氷解するを確信しているので、安心しつゝも二人の著劍の兵士に護衞されつゝセメノフスキー聯隊に向つた往つて見ると一等大尉の肩章を付けた

一露國士官は何の爲めに外國人を連行するかと兵士に尋ねた後自分に向ひ『貴下は露語を話すや』と問ふた『然り我は少しく露語を話す併し若し英語ならば非常に良く話す貴下は英語を解するや』と自分は答へたが士官は佛語は解るが英語は解らぬと云ふ、仕方がないので知つている丈けの露西亞語を並べて、自分は協商國たる日本國民である事露都滯在の用件及び今日のいきさつ等を逐一物語つた、すると士官は直ぐに了解して地圖を自分に返し、兵士等や

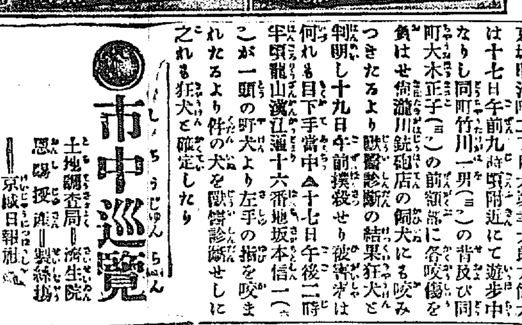
民衆の無禮を深く謝し同盟國日本の好紳士よ、健在なれと固き握手を自分に求めて立別れた、今迄手荒い言葉の兵士等も、態度一變謹ましやかな擧手の敬禮をして立ち去つた、兎に角露國旅行者は否なん歐洲各地に旅行せんとする人は須らくかゝる嫌疑の基たる委しい地圖を携帶せぬこそ良分別であらう(四月十日露都にて小田榮)

初夏の朝　漢陽公園にて

◆愛婦會記念品

寺内兒玉兩夫人に贈呈

愛國婦人會朝鮮本部にては寺内前總督夫人及び兒玉前本部副長に對し記念として螺鈿漆器局各一個を贈呈す可く齋藤漆美術品製作所に特製せしめ居たるが先頃美事に出來せしにつき大橋主幹東上に際し携帶四日首相官邸に寺内伯爵夫人を内閣書記官長官舍に兒玉伯爵夫人を訪問親しく右記念品を贈呈したるに何れも永く保存すべく役員諸氏に宜敷謝意傳達ありたしとて種々懇話ありたり



寺内伯爵夫人へ　兒玉伯爵夫人へ

五百戸燒失 弘前市の大火

十八日午後零時二十分青森縣弘前市富田町中津輕郡役所隣なる和島駒太郎方より出火し五百餘戸を燒失して三時鎭火せるが行衞不明者三名負傷者約十數名を出せり(東京特電)

狂犬が多い 小兒三名を咬た

京城明治町二丁目大塚幸太郎方飼犬は十七日午前九時頃附近にて遊歩中なりし同町竹川一男(三)の背及び同町大木正子(三)の前額部に各咬傷を負はせ御瀧川銃砲店の飼犬にも咬みつきたるより獸醫診斷の結果狂犬と判明し十九日午前撲殺せり被害者は何れも目下手當中▲十七日午後二時半頃龍山漢江通十六番地坂本信一(六)が一頭の野犬より左手の指を咬まれたるより件の犬を獸醫診斷せしにこれも狂犬と確定したり

市中巡覽 十九日の視察團

土地調査局―濟生院恩賜授産―製絲場―京城日報社

入京中の間島視察團は十九日午前八時に宿所を出で八時三十分から土地調査局を巡覽した調査局では和田總務課長以下の人々が

◆玄關口に出迎へ

て叮嚀に取扱ひたといふので一同大いに悦びそれから講習室に這入つて暫く休憩した後會計係長の案内で樓上の作業状況を描いた結構な觀覽しそれから測地課の樓上でさま〴〵の測地器具機械などを見た上で朝鮮女子の積算作業を見て『朝鮮の女でも斯んなむつかしい仕事が能きるのか』と感心し

◆積算作業を見て『これならば土地の紛擾が無つて正しい持主が勝つだらう』と話し合ひ『人民の財産を安全にする爲めに之れ程迄に苦心して居るのであるか』と心から感謝して居つた觀覽を終つて控室で茶菓の饗應を受けそれから獨立門通の濟生院盲啞部を視察した啞生が

◆自由自在に筆談したり盲生が點字本を讀んだり、算術を爲たりするのを見て『これほどまでに世の癈人が不自由なく讀書が能きるのか』と大いに感じ入りそれより恩賜授産製絲場を視察し午後より京城日報社を見學した

讀者文藝(一等に五十錢、每號券を呈す)

△下句付『見ず知らず』

○見ず知らず國の訛を戀しがり(一等)　京城　たけし

名乘合たら親ずなり　大邱　初心

義俠の記事に涙し　京城　雅留

ヒーキ角力にくみかはし　京城　しげる

ばかりで家出後悔し　京城　久爾家

▲盲啞部に感激す

▲一同から金子若干を寄附す　一行が十九日午前總督府濟生院盲啞部を視察した事は別項記載の通りであるが一行は盲啞生が此の濟生院に救はれ其の絶望的不幸から救濟されたるを見て非常に感激し一行中の老人の如きは涙を流して暫くは敎師に對して感謝を述べたが遂に團員一同から金子若干を同院に寄附する事となつた

福岡縣の大火

十七日午後一時福岡縣企救郡松ケ江村吉田貞雄方より出火し五十八棟を全燒し六時鎭火せり(大阪特電)

京都の大雷雨

十八日午後三時京都に大雷雨あり帝國大學及び第三十八聯隊等に落雷せり(大阪特電)

巨刹釋王寺(三)

▽山麓の二名物 ▽虹鱒の養魚場

▽米國の卵を孵化す―三年たてば立派な商賣―三防川に放流―谷川の料理△

◇昔しからある釋王寺の名物は兎に角、最近のものでは炭酸水と鱒の養魚場の二つが増ねた、兩者共還回李王殿下に獻上して御よろこびになつたといふことであるが、就中鱒の養魚場は見物である。

◇養魚場の鱒は卵のまゝを孵化室で日高さし、それを相當に大きくした上釋王寺の溪流と三防川とに放流するのである。現に昨年五月頃放流した米國産の虹鱒は、此の頃最早や七八寸に肥つて、急な瀬や灘を釋王寺のお寺附近まで溯つてゐるといふ。

◇孵化室の水槽中には滑らかな湧水を筧にとつて、箱の中の目高は何萬といふ程水に游ぎつゝ、鷄卵の餌を爭つて喰べる。種類には琵琶湖の鱒と、内地産の鰥魚と、米國の虹鱒さ。それに三防川あたりで漁れる在來種の黑い川鱒とがある。

◇五六寸の鱒は、何れも養魚池の稚魚の餌で育つてゐるが、これが三年も經てば一尺あまりとなり値段も一尾一圓乃至一圓五十錢のものであるといふ。

◇池の上には鳥を除ける護網があつて漁者が一番うるさいといふ。釣の中には眞紅の鵜位もある程々の弱者もゐれば、他に俳優なども居るといふ。

◇此處の鱒はみな英語で云ふツラウトの類であつて、日本の鱒とはやゝ違ふやうである。ツラウトは日本の鮭鱒の一種で鱖魚を捕る弱肉強食をする種類である。

◇西洋では田舍の富豪などが道樂に多くやるのだ相で遊覽客などはその土地で美味な鱒料理を賞して歸るといふとである。釋王寺の鱒も今に名物の一つとなるであらう。(えはり)

夏場所 七日目手捌き(十九日午前一時着電)

中入後の分

對馬洋に眞砂石は眞砂鋭く突張り對馬の右手を引きかけて廻り込み懷ろに突いて押さんとするを對馬殘して廻り込まんとする際眞砂敵の右足を取りそのまゝ押切らんとしたるも對馬殘せば眞砂透かさず右を差して寄り進み渡し込まんとするを打棄つて對馬の勝は面白き相撲

▲九州山に伊勢濱は九左を差して寄進み伊勢が殘して廻り込むをそのまゝ突いて押倒し九州の勝

▲大錦に黑瀬川は左四ツ錦が再三吊らんとするを黑瀬殘して得意の三枚蹴りに行くところを錦躓をきつけしため黑瀬の腰砕けて打ち倒れ錦の勝▲大の高に鳴門洋は立ち上がり無雜作に押切つて高の勝▲兩高山に八甲山は右四ツ兩高寄進み外掛けに浴びせ倒して勝▲小常陸に紅葉川は紅葉烈しく突きかけ小常陸の突き返へす出鼻を左手を持つて素首落美事に極まる▲一港に浦の濱は休

▲源氏山に石山は源氏素早く二本差となり寄れば石苦し紛れに右手を首に卷いて首投を打たんとするを突き落して源氏の勝▲瀧ケ崎に大戸平は龍進二無二突張り逃むを大戸掬いて四ツに亙らんとする間もあらせず突き出して龍の勝▲泉に土州山は立ち上るや否や無雜作に突き出して駒の勝▲釋迦ケ嶽に藤の川は右四ツ無雜作に吊出して藤の勝▲兩國に敷島は敷双筈にて押進み押切る刹那踏み越せるため兩の勝

▲栃木山に朝潮は栃木鋭く突張り朝が土俵際に殘すを突き放して栃木の勝にて打ち出たり

……

横濱と賭博　平壤賑町美人樓事小林彌平方抱へ娼妓美人事山田こはる(二八)は四月十日夜遊客なる中山雷……

店々員中山浦之助(四)南門町二番地ペンキ塗上木民三郎……安南道新安州日出料理店主荒木豊丸(五〇)平北博川……

消費したるのみならず南山町小林某方南門町中山方等に於て前後數回に賭博をなしたる事五月七日に至り……

入時四十分釜山入港高麗丸一二等客(一等二十名)……

商況

大阪株式

銘柄	前場拂込	十八日後場前場
宇治川水	五〇、〇〇	[illegible]
京阪電鐵	五〇、〇〇	三九、五〇
東洋紡績	五〇、〇〇	八〇、五〇
合同紡績	五〇、〇〇	[illegible]
鐘淵紡績	五〇、〇〇	三〇〇、〇〇
同上新株	三七、五〇	一一五、一〇
東洋汽船	五〇、〇〇	一四七、一〇
大阪商船	三七、五〇	[illegible]
日本郵船	五〇、〇〇	一八九、二〇
同上新株	三七、五〇	[illegible]
堂島米穀	五〇、〇〇	一六六、〇〇
東京新株	三七、五〇	[illegible]
大阪株式	三七、五〇	三〇一、七〇

大阪三品特電

大阪期米特電

十九日前場 寄付

限月	寄付
五月限	二四、三五
六月限	二六、七〇
七月限	二三、七五
八月限	二三、九〇
九月限	二五、五〇
十月限	二九、〇〇

下關期米特電

十九日前場 先限寄付 一八、〇七 中限寄付 一八、三〇 先限寄付 一八、七〇 止め

雜穀

十九日前場 晴天

綿糸布相場

割五分高 綿物は一割五分方の高値

賤は前年に比べ一割方下押したり

精肉の缺乏

米會有の高値

京城雜穀

南大門の廻穀

釜山穀物(十八日)

▲米價強弱觀

餅白は前日より約二十錢

蚊帳座地高

初斯約定物

生産を減じ甚だしく休業

入札炭の其後

棒鋼類小戻し

糸は七圓五十五錢

六手二百二十五圓

燐寸の現状

値は十二圓九十錢

新茶の其後

氣候不順の爲め茶芽の發育上影響

胡椒の現況

京城正米

仁川期米

十九日前場 七十八錢移

解合談起る

引續き休會

生魚市場

下關相場

正米情況

付模様は人氣稍(?)落

今朝十五圓三十五

仁川米豆取引所仲買人 今村覺次郎

仁川米豆取引所仲買人 三邑仲買店

天氣

晴れ

赤崎半島の中央高遠山の一角
集まり來る憐むべき人々
世に隠れたる外人經營の癩病院

釜山港を擁する赤崎半島の中央にて釜山鎭を距る十數町の海岸高遠山の一角に世に未だ知られず又た釜山在住の人々にも多くは御承知のない外國人經營の癩病患者を收容して救濟する癩病院あることで

▲英國は蘇蘭 コジンギロに幹部を置き印度に十數個所と東洋方面に五六個所の支部を置き癩病患者を救濟する目的の下に組織せられて居る傳道會がある此釜山に在る癩病院と云ふものも其會の一に屬して居るもので專ら不幸なる癩病患者の救濟に從事して居るのである、釜山に於ける此病院は明治四十三年の八月に現在の場所なる慶尚南道東萊郡西面中岩洞に設立せられたもので

▲敷地及建坪 は敷地が二千坪建物は左したることもなかつたけれども追々患者が聞傳へて救濟を申込む者が多くなつた爲めに大正四年に增築し現在の處は總建坪百四十六坪二合九勺内病室が十二室七十六坪と其他は事務室看護婦室炊事場物置等に使用せられて居る事務室は洋風建であるけれども病室其他は洋鮮折衷式の平家建にて室内は温突式になつて寢臺は用ひていない

▲病院の監督 は英國の宣教師ジエメース、ノオーブル、マンケンジー氏で會計監督は米國宣教師ジョーヂ、エッチ、ウイン氏、協議員にはエングル氏等が擔任して居る最初此病院設立の時にはスミス氏アービン氏サイボスシ氏等が經營して居た相である當時は物價も今日の如く高くなかつた爲めに三千七八百圓から四千圓であつたが現今では

▲經費五千圓 以上を要するとのことで全部英國の癩病傳道會から寄贈を受けて居るとのことである

も藥價は監督のマッゲンヂー氏の手許から支出される同病院は治療と云ふよりは寧ろ救濟と云ふ主旨になつて居るらしい其れで入院患者の經費と云ふは食料其他合して一人前が五圓位、食物は一人一日に金三錢宛現金で給與して各自に野菜魚肉を買はしめて男は男同士、女は女同士

▲自炊の生活 をさして食料品なり衣類の如きは豫て同院の倉庫に貯へあつて必要の度毎に授與することになつて居るが患者は全部貧窮者で總て施療患者のみであるが今日まで同病院で救濟された患者は既に數百名に達して居る現在の入院者は三十名内外で重症者には其々手當を施して居るけれども輕症者の男には釜山との往復解船の船頭なり植物の手入や構内の田圃耕作に從事せしめ女は炊事なり裁縫等に使用して居る同病院には

▲死體火葬場 を病院の山手に設けて患者の死亡者は總て火葬に附して病毒の根絶を計ると云ふ朝鮮には珍らしい設備があることで土葬の慣習の朝鮮で死體を火葬に附すると云ふことは絶對に忌むことであるにも拘はらず憫む可し彼等癩病者は自分の病毒が如何に恐る可きことを能くも自覺して居るものと見え火葬に附せらるゝことを厭はないとは一段と彼等に對し惻隱の念が深く感じられる

▲斯かる不幸 なる患者に對して世人は如何に過して居るかの一斑として監督マ氏が本國の傳道會に報告したる一節に斯う云ふことが書かれてある「大正三年に二人の鮮人が同病院に來りて診察を受けた結果癩病患者として入院せしめ種々治療を施したる爲め幸に全治したけれども然し彼れには悲しいことに將來拭ふ可らざる癩病の系統を絶つことの困難であつた其れが故に誰れも

▲引受て還る と云ふ者が一人もない其中の一人は恰かも傳道師の如くオーストリヤ宣教師ナイプン孃監督の下に收容者の教訓指導に寢食を忘れて盡力した、今一人は善良なる感化を受けて婦人患者指導に盡して居て之れを失ふは惜しきことであるけれども本人の望に委せて歸郷せしめたる所自分では喜んで迎へて呉れるものと勇んで歸宅して見ると案に相違し自分の宅に寄附けぬのみか

▲暮しい亭主 は既に他から女房を娶り可愛い一人の娘の顔さへ見ることも出來ぬ夫の非道冷酷を憤りたるも詮すべなく又た村人も以前に親しかりしに反して誰れ一人言葉を掛けられず自分の村を逐ふ如く最早自分は廣い天地に身を措く場所としては此病院の外にないと涙ながらに身の不幸を訴へて戾つて來たことがある」

▲怨む造物主 我れに何の科ありて生れ乍らに斯く不治の難症、忌まれる業病を授けたるか彼れには嘸ぞや怨みは盡きざるべし其れに付いて此程釜山警察署に市内居住の一癩病者出頭して「自分は見掛けの業病に罹りし上は最早總ての希望も得るの途なし自身は生きながらせ刻まるとも何の厭はなければ切めて同病者の犧牲に病理研究の資料に供したし」と願ひ出でたるものありとて此の願出では誠に彼れ癩病者の眞の意中を語りしなるべし之れを聞きては一掬同情の涙なしとせず人類共濟の上より將た人道上より彼等不幸なる病者救濟の途を講ずるは寔に忽かせに出來ぬ大問題なりと思はる（釜山）

口献上煙草
大邱の光榮

朝鮮總督府煙草專賣課より奠都博覽會に出品したる朝鮮葉卷煙草は畏くも天皇陛下の御目に止まり御買上げの榮を蒙り更に此の程該葉卷煙草を獻上すべき旨申越されたる趣きにつき總督府煙草專賣課に於ては原料を撰擇し近く右葉卷煙草の製造に着手さるゝ筈なるが其の上卷に供すべき葉煙草は專賣課大邱出張所へ去る十六日附を以て用命ありたり（大邱）

朝鮮の藥水とは何んなものか
ラヂウム含有量＝中央試驗所の研究

朝鮮に於ては未だラヂウム、エマナチオンの含有鑛泉の發見を見ざるも中央試驗所の之等研究する所にして今回同所は是れが結果を報告せり、今回報告に掲載せられたる所を觀るに井水冷泉に屬するものは概ね京城附近所在の古來鮮人間に於て藥水と稱せしものを主とし地方に在りては主として温泉に重きを置きたり

▲京城附近の成績 昨年中京城附近の井水冷泉等を試驗せる結果ラヂウム、エマナチオンの含有を認めたるものは合數七十六箇所にして其の内最もエマナチオンの含有多きは鍾路宮内山下に在る藥水と稱する井水にして七十七マツヘ四を始め同山上藥水の七十一マツヘ五之れに亞げるは南山町本願寺前井戸の七〇、三光町官舍第二號井戸の六三、六大和町鉄人官舍井戸の六二、四政務總監邸井戸の六〇、一羽衣町鐵人官舍井戸の五八、三大和町官舍第一五號井戸の五八、〇倭城臺官舍第八號井戸の五二、六此他三清洞藥水の五一、三等が最も優良にして四十マツヘ達のもの四箇所三十マツヘ達のもの九箇所二十マツヘ達のもの十七箇所等あり

▲地方温泉の成績 前記鮮内に於て今日温泉として知られたるものは其の數四十餘箇所にして其の内最も著名なるものに付てラヂウム、エマナチオンを含有せるは如左

▲東萊温泉 蓬萊館六號湯口二、三五同四號一、八九同六號六、六三同七號六、六〇共同浴場の傍 [illegible]

▲海雲臺温泉 海雲樓五號湯口二、〇五同五號二、一九瓦斯倶樂部湯口一、四 舊温泉一、二八金井山〇、五五

▲儒城温泉 温泉會社一號湯口一一、〇九三號一二、六八 鑑鑪湯口九、七四浴場側井戸九、四一

▲温陽温泉 陸軍療養所〇、六四温陽館二、一三温泉會社一、二六

▲龍岡温泉 部落館二號湯口一、六八陸軍一、[illegible]

▲温井里温泉 三三町入共同一、一五 七、七一

恐ろしい女
夫を毒殺せんとす

忠南大田郡山内面三槐里百九十七番地農朴五禮（二八）は同所金萬福の女房となりたるも別に好い男があつてかどうか亭主との折合が面白からず其の顔さへ見るのが嫌ひとなりしため殺意を起し去る五月八日摘草に事寄せ自宅附近より程遠からぬ山谷に至り烏草と稱する毒草を取り來り其の根を細末の如く切り刻み翌朝食の際夫の萬福にすゝめしも萬福は其の臭氣がするからとて喰はざりしも萬福の實父金成甫が勿體ないとて喰つて仕まひたるに恐るべし約三十分間にして毒草が全身に廻り血を吐くやら瀉すやらの騷ぎに近隣の甲乙が駆け付け朝鮮の解毒藥綠豆汁を呑ませ漸く生命のみは取止めたるを表沙汰にもせず其のまゝ打ち過ぎしを且所里憲兵出張所の作本上等兵が探知し逮捕取調べの上罪狀を自白したるを以て身柄は公州地方法院へ送りたり（大田）

眞晝の泥棒
三人で三百餘圓

忠南大田郡鎭岑面鞠山里百三十三番地農李昌來（三五）同上百三十五番地金性萬（三九）同人妻曹奇順（三五）の三人共謀して五月十日而かも正午十二時頃同所李東華方の不在なるに乘じ豫ねて三百圓餘の現金あるを知つて居るものから先づ性萬、奇順が見張の役に立ち昌來が東華の宅に侵入し温突内の木櫃の中に匿し置きたる三百三十五圓を窃取し一文も消費せずして其の附近の墓地に埋沒し置きたるを家人の知る處となり憲兵隊に訴へ出でたるを以て種々捜査の結果右の始末判然昌來は江景方面へ逃亡中三名共難なく取押へ地方法院大田支廳の公判に移したる結果昌來性萬は右懲役八箇月奇順は懲役七箇月に處すべき旨十八日即決ありたり（大田）

面長の横領

忠南大田郡東面新下里朱鏞元（三七）同所元同面書記宋鍾旬（三三）の兩名は共謀して大正三年十二月より同大正四年二月迄の間に數年間に渉り濫りに面長の印鑑を使用し土地税附加税等を胡麻化したる事大田憲兵隊の知る處となり證據十分なるより公州地方法院に送りたり其の横領額は尚不明なるも約三百圓内外なるべしと（大田）

理髪業者講習會

京城本町警察署管内居住内地人理髪營業者は豫て大日本理髪會京城支部を組織し講義錄を購讀し互に理髪術の研鑽に努めつゝありしが這回是等同業者主唱となり毎月の定期休業日なる十七日を以て今後毎回講習會を開くことゝなし第一回なる本月十七日は本町警察署構内に參集し同署員警察醫等より衛生上の講話ありたり尚鍾路警察署にては管内居住朝鮮人理髪營業者及び從業者百四十餘名を十七日午前同署に召集し係員より夏季衛生講話ありたり

●釜山各學校水泳場 釜山學校組合の設立に係る商業專修學校、高等女學校、各小學校生徒の水泳練習は例年の如く來る七月二十日過ぎより南濱海岸に水泳場を設け諸種の設備を爲す筈にて昨今調査中なるが專修生徒は二百九十九名高等女學校は三百六十八名各小學校は四年生以上千六百四十三人の中既に練習を終へたるもの及び身體檢査の結果不適當と認むるもの又は希望せざる者を除き約四五百名の練習生を得べき見込也と（釜山）

神社とお寺と教會

○東本願寺別院（南山町）十九日午後八時より信友會講話「眞宗生活」大寺監督「新しき宗教」藤井秀哲「眞宗に於ける歸向の宗義」渡島保一

○京城基督教會（南米倉町）午前九時より日曜學校及び聖書研究會午前十時より説教「惡の時代の日」渡瀨牧師午後八時半より「人格の完成」宮川牧師

○妙心寺提 廿日午前九時より授戒會 [illegible]

○聖公會日曜集會（南米倉町）五月二十日午前九時三十分聖餐式 [illegible] 午後一時日曜學校午後八時晩祷 [illegible]

○メソヂスト教會（旭町二丁目）廿日午前九時三十分集合、[illegible]

○京城日本基督教會（長谷川町）五月廿日午前九時 [illegible] 午後八時 [illegible]

○救世軍京城小隊（永樂町二丁目通）五月十九日（土曜）午後八時 [illegible]

○龍山日本基督教會（漢江通）二十日午前十時 [illegible] 午後八時傳道説教「同情の同化力」伊藤牧師

▲高野豆腐の揚物 高野豆腐を灰汁に浸けて押へつけて水に移し能く洗ひ沸騰湯で茹で今一度洗ひまして水氣を [illegible] 急ぎます時は鍋に湯を捨て水氣を絞り斜に庖丁を入れ三角形とし [illegible] 玉子を溶き [illegible] パン粉の上に取出し [illegible] 胡麻油の煮立ちたる中に入れて [illegible] 油氣を抜きます [illegible] 火加減を要す

口演藝案内

大正館 櫻井町 電話八七三 日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
▲五月十九日より新寫眞提供（入場料普通）○史劇上野戰史天野八郎（全三卷）○軍事活劇第十二快漢ロロー [illegible] ○チャプリンのなぐり合ひ（全二卷）○滑稽活劇 [illegible]

壽座 京城壽町 電話五七八番 大坂歌舞伎中村梅升一行
▲十八日替り藝題 ▲前 鏡山古郷の錦繪 六場 ▲中 三勝半七酒屋の段 ▲切 白木屋

黄金館 電話二六三七 六五二
[illegible]

御成座 電話二九一 波町
[illegible] 中村正男 [illegible]

有樂館 早川演藝部 電話（陸上）四九七番
[illegible]

無代 自動車學校 東京市京橋區 私立認可 此際何人にも自動車に向て居る心識 時申込まるべし

軍隊拂下被服類 特別廉價販賣 夏物 メリヤスシャツ サルマタ ズボン下 メリヤス雜貨卸商 村上商店 京城北米倉町 電話一一二番

大賣出し 田村質店 京城黄金町 電話一九一六番

曾我商店

書畫骨董競賣 場所 原金旅館 日時 五月十九日下見 二十日糶賣 京城美術倶樂部

今延商店 大阪堂島米穀取引所仲買人

新菓發賣（松の花製） 龜屋商店 京城本町二丁目 電話四七九

金剛山

古賀病院

求職の方に好職業を授く

特許防水衣 見本及定價表無料送呈 京都 星川發明部

確實有利金儲新法 實業通信社

古城賣化堂 京城本町二丁目角 優良の藥品と賣藥が揃つて居ます ウララ化粧品代理店ですから……御値がお安いです

活動寫眞器械 家庭用小形活動寫眞 幻燈器械各種 寺田清四郎商店 大阪市新町通二丁目

内外科 小兒科 花柳病 高井醫院 京城本町二丁目 院長 高井貞治 副院長 松崎正彦

本場 久留米絣 皆様方の上品なる夏の御召料として本品に限ります 地質堅牢着心地のよい實用品は本品に限ります

外科 内科 一般花柳病科 一般皮膚病科 島崎病院 京城旭町一丁目 電話二七三六番

梅雨前に 衣裳の御手入 御肝要

眼科專門 金井眼科醫院 京城本町四丁目 日曜祭日午前中

明君道中記

第百五十席　田邊南龍口演

川村靱負は先に立つて武器の類を取出して 靱『さア〳〵此の鎧兜槍大小其方共の氣に叶つた物を持つて行け是だけは遣はすが、然し二人の孫は遣る譯には叶んから ○『御冗談被仰い御孫様を頂戴いたした處が仕方がございません、然し心得の爲伺いますが、何で恁らいふことをなさるのでございます 靱『靱負は切腹をいたす、孫共兩人にも自害をさせる、其の仔細は其方共に語る譯には相成らんが、思ひ出した時には一同念佛の一遍も唱へてくれゝばそれで宜い○『ヘエー御前様が御生害を遊ばすといふのを承はつて我々共が退身いたすといふは 靱『イヤ苦しうない、永居をすると其方共の身の上に災がかゝるから今の内に退散をいたせ、最早猶豫いたして居る場合でない○『左様でございますか』と云ひながら心ある者は別を惜しみますが、中に慾張つた奴は何うせ遁ると被仰るのだから旦那が平素自慢をして居る鎧を擔ぎ出さうなぞと鎧櫃を脊負それに鐵砲三挺に槍一本擔ぎ出したが重くつて歩けない○『何うした△『重くつて歩けない○『餘り脊負過ぎるから』なぞといふ騒ぎ、又女の方は靱負が亡妻の衣類櫛笄なぞも澤山にございますから我勝ちに取出し是を著たり脊負つたりしてゾロ〳〵一統出懸けて行く、靱負は徐に座敷の中央に座を占めて 靱『むつ此處へ參れ、千之助も此處へ參れ』二人の孫は呆氣にとられ何うなることかと思つて居りますると 東『ハイ』と流石は大身でありますから死に装束の用意もしてありましたものと見ゑ、兩人は座を立ち言附られた通り一人は水色一人は白の衣類を著して元の處へ座しましたる様子を見て靱負は其處へ盃を取出し 靱『偖其方共へ祖父が始めて物語をいたす、先頃より殿様御謀叛の企有之勿論私ならざることにて、駿河大納言殿のお頼みによりて當城へ御一泊に賄ひ奉り駿河殿を以て三日たりとも四代の將軍に直し奉る思召ありし處、天是を許さず已に間際に至つて事露顯いたし將軍家光公は石橋の雲慶寺より御歸城に相成り、猶江戸表の様子を段々と間者を以て窺はせたるに將軍家には人數を以て當宇都宮を取詰めんと爲したるを老臣の中に意見二ツに分れ遂に弱年ながら安藤對馬守伜右京進重長當城へ乘込みしは主君を說いて關東へ護送いたす手段と見ゑる、依て只今殿様へ對して祖父がお勸め申し上げ死すべき時に死なざれば死に勝るの耻ありとやら潔く御生害を遊ばす様にと申し上げたれども御肯入れなく、却つて御不興を蒙り已むを得ず當屋敷へ歸りしが、今にもわれ安藤右京進が乘込んで辯舌を奮い主君を說いて必ずや江戸表へ召伴れるに相違ない、左すれば十八萬石もはや斷絶するは必定、陰謀に組せし我々所詮一命の助かる筈もなく、又素より身命を擲つて御味方になりし某なれば死するは更に厭はねども、只不愍なるは其方共、世の中に生れて來て未だ人生の苦樂を味はざる内に冥途の道へ赴いて貰はねば相成らず、何うぞ二人とも是非なきことゝ諦めて自害いたしてくれ、介錯は此の祖父がいたして遣はす、千之助取り分け其方は男子のこと姉に先立つて切腹いたせ、又むつは自害をいたすことを存じて居るか むつ『ハイ』と云つたがおむつも返答に困つた様子、何と云つても女のこと只おど〳〵して居ります、此の體を見て川村靱負も涙を流し心中に、嗚呼無理は無い、年齒も幼ぬ若共が死に後れるは無理ならず、と思しか、斯くては果じと靱負は短刀を取出して二人の孫に自害を勸めまする

花の口もと
袂でかくし
そつとアンパン、木村屋の
（城南治町　笹一八七〇）

曆

五月二十一日　九紫
舊四月朔日　癸亥
本命九紫　南　破　佛滅

△九紫● 猛進を忌むの日商用新事見合西方は吉 △一白● 遊に遊ぶ [illegible] 一切の判事せぬがよし △二黒● 悠揚たる日 [illegible] 居旅行入學名弘出遊求職金件婚盛入組の [illegible] 等萬吉 △三碧● 心美の日轉居開業等皆吉女子の激發を戒しめ立身を爲す頗る吉藍の日也 △四緑● 名譽の日轉居旅行出遊名弘求職金件 [illegible] 乘馬を求る等皆吉 △五黄● 盛運の日轉居開業等皆吉時に紛擾事業を起すに妙也待人來る △六白● とんちんかんの事有日新事手控着事は吉 [illegible] にせらるべし △七赤● 押懸立訴の事有日新事手控着事は吉一切のかけ事を禁ず △八白● 理想に叶日轉居行求職金件保證出遊婚姻金融等 [illegible] 業等萬吉

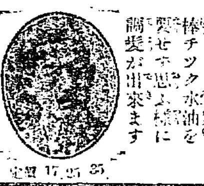
一千反限りの
絹セル
正金代用 金指輪進呈

東京流行絹セルが一反只の一圓九十五錢で買るとは染料や原糸の高き今日嘘のやうだが現に過去五年間呉服類の格別安價で評判を取つた東京日本橋區本石町壹丁目呉服問屋關谷商店が自慢の絹セルを前記の馬鹿値で投賣りしつゝあるが日々羽根が生へて飛ぶ大賣行柄合も地質も一見高價の舶來セルに負ぬ程の上等品でタッタ一圓九十五錢特別上製二圓五十錢と云ふ一風變つた大勉強買ぬ者は損なりけり且大賣出しの記念として先天的十八金色を有する金色燦たる不思議金指輪を一反の注文毎に一個宛の無代進呈をなす由因に地方の希望者は同店宛ハガキにて男女別年齢を記し申込は柄合親切に選び代金引替送料も實費で送るとの事

特製品
A十個四十錢 B十個六十錢 [illegible] 一個
廿五錢 女用一個八十錢 廿個以上一割
[illegible] 一割増送料 [illegible]
個七十五錢　振替京城三三二七番
京城黄金町三　山田文殊堂藥房

りん病特効新薬
＝化學式製劑エフエクチン＝
○急性淋病、○慢性淋病、○消渇、
ハガキにて申込め說明書無料進呈
試藥提供　切手廿錢送附せよ効力實示の爲本新藥十錠送呈す
東京 [illegible]　東京藥化學研究所

くだりとめ
最新良藥
高貴藥配合
清腸
高橋盛大堂藥局試驗部創製
主治
△痢病　△腸加答兒　△霍亂　△消化不良下痢　△吐瀉病　△其他腹冷　△水あたり食傷　△より起る一切の下痢病
ふくろ形　オブラート添附　服み易し
定價拾錢　貳拾錢　五拾錢　壹圓
本舗　大阪堂島元蝋燭　高橋盛大堂藥局
發賣　同　心齋橋博勞町　高橋盛大堂分店

頭分けには
二葉ポマード

美髪用煉香油
棒チック水油を要せず思ふ様に調髪が出來ます
お髪上にも大變な評判！
發賣元　大阪南久寶寺町　伊倉支店
小間物化粧品店にあり
定價 17, 25, 35

質
京城黄金町二丁目入（永樂町停留所北）
堀佐營業所
電話六三九番

M印
品質本位
エマリ
大阪 [illegible] 飯田商店

七日ソバカス鏡をごらん色白くなるゲンソ液
小壜二十錢　徳用四十錢
今東京で大評判の元素液色黒き顔赤き顔日ヤケおしろいヤケ、アレを防ぎキメをコマカに眞に色白く美人美男子となる全國の藥店小間物化粧品店にあり近所に品切の時は切手代用御送附あれば送品す　送料內地八錢　清鮮廿錢　臺樺廿錢
東京神田和泉橋際　松本藥店

此季節
脂肪の多い方には
斷じて他にない化粧水
レート乳白化粧水
＝日本で最初發明された乳白美劑＝
附けて潤澤と美しくなる
◎毛穴を開いて血色をよく致します
◎お顔の脂を取り日焼を防ぎます
◎お顔にギラ〳〵浮く脂を留めます
◎素顔を根本から美しく致します
◎白粉乗をよくしお化粧栄致します

天下一品の化粧水
本舗
東京　平尾贊平

子供の時から
ライオン歯磨を使へば
大人になつてからも、屹度体が丈夫です
子供の時から
ライオン歯磨を使へば
老人になつても、かならず歯が丈夫です。

東京本所區外手町
ライオン歯磨本舗　小林富次郎
ライオン石鹸　支店
(780—6)

京城日報

五月二十日
（夕刊と合せて八頁）

本紙定價　一部金二錢五厘　一ヶ月金拾五錢
廣告料
發行兼編輯人　奥田直毅
印刷人　小川三之介
發行所　合資會社　京城日報社　京城太平通一丁目

京城講壇

石炭鑛業に對する警鐘(アラーム)

世界の炭量と我石炭鑛業の將來

總督府技師　川崎繁太郎

凡そ産物の種類には農産物、林産物、水産物及び鑛産物の四種あるが、鑛産物は他の産物と相異せる點が一二にして止まらない。先づ第一利用の途が違ふ。農産物、林産物及び水産物は主として人間の食物を供給するものであるが、鑛産物は人類の現代的物質文明の食物を供給するものである。即ち鑛産額の多き國は、國力が饒である事は明瞭なる事實である。更に著しく相異する點は、他の産物は自然に增殖し得る上に、之に人力を加ふるに於ては、益々蕃殖增進せしむる事が可能であつて、人類の有らん限り永久に供給し得べきものである。然るに鑛産物に至つては、天賦の量が既に一定し決して自然に殖ゆるもので無い。寧ろ現代文明の進歩と共に之を採掘する事愈多きを加ふる時は益々甚しき勢を以て減じ行くものである。即ち農産物林産物及び水産物は地球上に大變動の無い限り人類と共に永久に存續すべき性質のものなるに反し、鑛産物は地球上に大變動が有るに非ずんば、漸次減少するものである。故に人類の食物は永久に有るが物質的文明の食物は決して無限ではない。既に或る種類の物は、今日全く採掘し盡して了つた國も尠くない。又或る種の鑛物を盛んに採掘したと云ふ事は唯單に過去に於て之を見る計りの國もある。例へば瑞西の如きは既に石炭を掘盡して、今は全部外國の輸入を仰いで居る。日本に於てもアンチモニーの如きは昔時の如く盛大なる鑛業として經營し得ないのである。斯の如く人類の物質文明に必要なる鑛物が漸次減少する事は、歐米の先覺者をして大に心痛せしめたものであつて、既に英吉利に於ては約十四五年前即ち千九百三年頃、石炭供給調査委員會を設置し石炭政策の樹立に努め、合衆國に於ても千九百七年天産物保存調査委員會を設け、天産物の保存に就いて鋭意研究の歩を進めて居る。瑞典に於ても鐵鑛調査委員會を設けて居るが、第十一回及び第十二回萬國地質學會に於ても、鐵及び石炭の問題を非常に議論して居る。日本には漸く此經濟調査會なるものが、設けられたが、各國に於ては是等の調査會に依つて早くより鑛業政策を確立せんとして居るのである。現に瑞典に於ては既に鐵鑛の輸出を制限した事があり、又制限しつゝある。獨逸の如きは石炭を官營に移さんとしつゝあつた程である。

物質的文明の食物たる各種鑛業産物中最も必要なるは鐵と石炭とである。恰も之は米とパンの如きものである。日本には此の必要なる鐵が甚だ少量で、大部分外國輸入に俟ねば成らぬ現狀に在る。唯石炭は稍豐富らしくあつて、日本としては多量の石炭を採掘し、外國輸出も多額に上つて居る。そこで余は茲に日本に於ける石炭の將來如何、更に世界に於ける石炭鑛業の趨勢如何を述べて、日本の石炭鑛業に言及し日本が將來石炭鑛業に對して執る可き方針は何れに在るかと云ふ事を研究せんと欲する者である。此事に就いては、日本地質調査所長井上禧之助氏が度々雜誌若くは報告書に論じて居るが、以下述べる中の統計は多くは同氏の作つたものに依據したものである。

先づ世界に於ける石炭の産額を擧げんに、開戰後の統計は得難い國も有るから、戰前即ち千九百十三年の統計に據ると、世界に於ける石炭の總産額は十三億餘噸で、其の中總産額の一割以上を産出する國及び其の領地を、石炭産出の上から見て余は五等に區分した。即ち第一等國は約四十パーセントを産出する北米合衆國で、第二等國は約二十パーセント位を産出する英吉利及び獨逸、第三等國はずつと下りて、僅か三パーセントを出だす墺太利と匈牙利と佛蘭西とであるが、第四等國は僅々一パーセント半を出だす白耳義と露西亞と日本とであつて、最後の第五等國は支那と加奈太と濠洲と印度とで僅かに一パーセントに過ぎない。今試みに約三十年前の千八百八十年に於ける世界石炭總産額を見るに、今の約四分一即ち三億四千萬噸位である。而して其の當時の一等國は、英本國で、二等國は北米合衆國と獨逸、其の他の順序は千九百十三年の統計と變りが無い。即ち之に依れば三十年後に至つて、北米合衆國と英吉利とが、其の等級を顚倒して居る。更に三十年前より今日に至る迄十年間毎の統計を取つて見れば産額增加の割合が判かる。之に依つて見ると一般に歐羅巴諸國の先進國は十年毎に約二割宛産額が增加して居る。然るに亞米利加や東洋に於ける諸國は、十年毎に十割宛産額が增えつゝあるから、結局世界に於ける石炭の總産額は十年毎に五割宛增して居る譯である。年毎に斯の如く石炭は非常なる勢を以て增しつゝあるから、今後十年二十年を經過すれば、其の産額は夥しい數を示すに至るべきは、逆睹するに難からぬ次第である。

そこで世界に於ける炭量即ち地下に埋藏し居る天賦の炭量は如何程有るか分明したならば、石炭鑛業の生命なるものが、自ら判るのである。何んと言つても炭量の詳しく分つて居るのは、早くから鑛業政策に著眼せる歐米の先進國であつて、東洋及び南洋の諸國に在りては其の調査が充分で無い。隨つて一樣に之を述べる事は可能ないが、先づ歐羅巴諸國の正確なる鑛量と東洋諸國の不確なる鑛量とを混淆して見ると、天賦の鑛量の最も豐富なるは北米合衆國で、總鑛量三兆八千億餘噸ある、次は加奈陀の一兆二千億餘噸、次は獨逸の四千二百億餘噸、次は英吉利の一千八百九十億餘噸、次は濠洲、印度、露西亞、墺太利、匈牙利、佛蘭西、白耳義、最後が日本と云ふ順序で是等諸國中我が日本は最も炭量が尠ないのである。更に前述各國十年毎の石炭産額の增加を勘定に入れて考へて見ると、世界に於ける石炭鑛業の生命は甚だ短かいもので有る事が判る。其の中で生命の一番永きは英吉利であるが、之さへ百五十年にして石炭を掘盡して了う。次は獨逸、墺太利、匈牙利及び加奈陀で百三十年位で掘盡す。次は亞米利加合衆國、佛蘭西及び濠洲で、百二十年、次は露西亞及び印度で九十年、日本は石炭鑛業の壽命が最も短かく、僅か五十年にして掘盡して了ふ勘定になる。

飜つて、各國は其の産出する石炭を如何に處分しつゝあるかと云ふに、英吉利の如きは、約半分を自國の需要に供し、他の半分は之を輸出しつゝある。合衆國、獨逸、日本及び濠洲では、産額の幾分を外國に輸出し、大部分は自國の消費に充てゝ居る。其他の諸國は全部石炭の輸入超過國である。石炭は物質文明の食物であるとすれば、石炭輸出國は自國に於ける石炭鑛業の壽命を犧牲に供してまでも、他國の文明を助け居ると云ふ事に歸著する。殊に甚だしいのは我が日本である。日本は其の天賦の炭量が甚だ僅少であり且つ其の壽命が最も短かい事は既に判明して居る。然るに石炭輸出國としては世界の第三位を占めて居る。之は恰も[illegible]の財物を賣喰して居る樣な次第で決して喜ぶべき現象では無い。墺太利、匈牙利及び佛蘭西は、日本より遙かに多量の炭量を有するにも拘らず、多額の石炭を輸入して自國の消費に充てゝ居る。而かも其の石炭鑛業の壽命は、日本よりも永くして百二三十年は續く勘定であるが、若し此の統計が眞に近いものとしたらば、日本の文明は五十年に達せずして餓死せねば成らぬ有樣である。

是に於て乎日本文明の餓死救濟方法如何を研究する必要がある。日本の文明を之より增進せしめねばならぬと云ふ事ならば兎も角、此の勢を益々增進せしめんと欲するならば、日本に最も近かくして且つ日本の使用に最も利便なる國より石炭を取寄せる事を考へねば成らぬ。そこで朝鮮及び滿洲の石炭は如何であるか。朝鮮及び滿洲に於ける炭量は充分調査は出來て居らぬから判然せぬが、先づ大ざつぱに朝鮮には四億萬噸、滿洲には十二億萬噸位有ると一般に信ぜられて居るが兩方合して十六億萬噸である。而して朝鮮及び滿洲其れ自身の産額は一年二百餘萬噸であるから、朝鮮及び滿洲が段々開けて行き其の産額が十年毎に七割宛增すものと假定せば其の石炭壽命は今後百二三十年にして盡きる。故に朝鮮及び滿洲の石炭は日本文明の餓死救濟上大なる効能はあるまいと思ふ。

然るに日本と最も近い外國に支那と云ふ國が在る。支那は古くから開けて居る。鑛業上には猶充分の餘地がある。其の上國土は非常に厖大で未だ全部に亙つて地質調査を行つた事が無く、唯極く小部分が外國人及び日本人に依つて調査されて居るに過ぎぬ。既に其の調査した所に據れば、鑛物は非常に豐富で、殊に石炭に至つては獨逸の總鑛量と匹敵するだけ有ると云ふ事である。若し夫れ支那全土に亙つて精細なる調査を遂げたならば、蓋し莫大なる鑛量を發見し得るであらうと想像される。此の與支那に於ける石炭の年産額は千四百萬噸で、十年毎に約十割宛年産額が增加して行く。是から計算すれば、支那に於ける石炭鑛業の壽命は世界に於て最も永く約五百年は續く譯である。既に知られて居る小區域の石炭だけでも、右の如くであるから、全土の石炭を調査したらんには大變なものであらうと思ふ。日本の炭量は甚だ僅少にして、隨つて石炭鑛業の壽命は短かいが、隣國の支那は世界第一の石炭國であるから、日本人は宜しく之に著眼するの要がある。然るに現時支那に於ける主なる炭山は、殆ど全部外國人の經營に係る。而して戰後歐洲の強國は必ずや一層支那の鑛業に注目するに違ひ無い。されば日本の鑛業家及び爲政家は、今日更に深く支那の鑛産物に注意を拂ひ一定せる方針を確立するに非ずんば徒らに御馳走を見て餓死するの愚を學ぶであらうと思ふ。

南洋見物

淺岡重藏投

(19) 印度兵の叛亂（其一）

大正四年の二月十五日、日は西山に傾く頃、突如として一大警報は新嘉坡全市に傳へられた。曰く「アレキサンダー、バラック（西方郊外數哩）の駐屯步兵第五聯隊（將校は英人、下士兵卒は印度種族のパンヂャブ人）叛亂し勢ひ猖獗を極め夜に入らば市街に襲來すべし」と。英人義勇兵は非常召集に應じて海岸の本營に集合し[illegible]

日報詩壇

○春江漁父　大久保曉香

暖地無天好託生。春風穀動棹歌聲。一監魚換一樽酒。月上花梢影落舷。

汀畔岸花春一蓬。鷗邊停棹老漁翁。竿頭釣上鱗織月。笑見銀鱗躍滿篷。

評曰　前首絶似張志和漁歌子、後首亦佳、

○春日山寺　西村秋湖

苔埋小逕逕蒼蒼。淨境無塵有篆香。來禮金王賓寂色。詩僧乗興唱酬忙。

評曰　卽興入詩、又有雅致、

日報歌壇

春のゆく小雨の宵に紅色の袖とりいでて灯心寢ひけり　諧　環

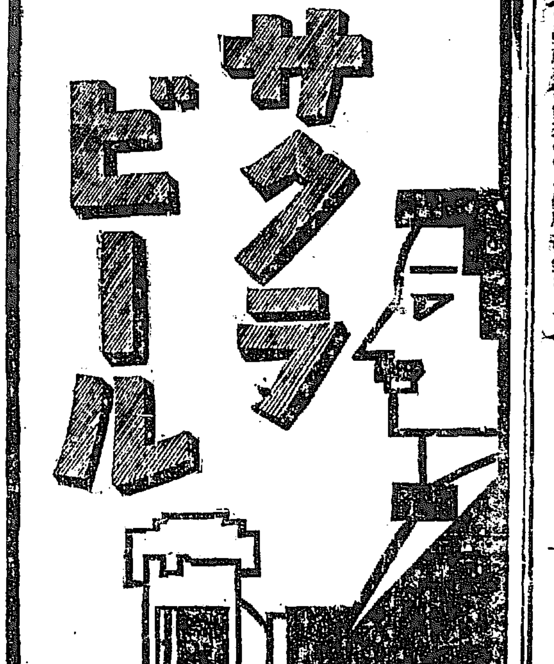
みやの細き隙間にほの見ゆる緋のおん袈裟の尊かりしよ　匂ひ草

み法の灯さゆらく影の御饗殺見ぬ經樂にある心地して（光演法主親教の日に）

なげかしき事のみ多く若逃げばまたも青葉にうつる涙　沼上文泉

青葉若葉見詐せば涙にちみ來ぬうつとり日曜めし初夏の朝

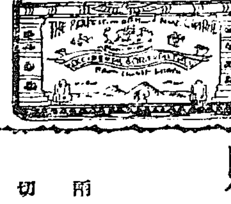
木蓮の花ほのぼの白し赤土の山かよき香はひのぼるかな　蘆花



眞の麥酒を味ふ方は
櫻麥酒を愛飲せらる

サクラビール

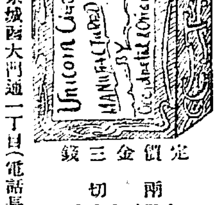
朝鮮總代理店
白神洋行京城支店



光榮

弊商會謹製煙金口「スペシアル」は於東京奠都五十年奉祝博覧會
行幸の當日　畏くも
賜宮内省御買上の光榮

革命の金鈴＝二大良煙



附切　ルーニコユ　定價金三錢

附切　ホワイトカウ　定價金三錢

定價　百本入一圓廿錢　五十本入六十錢　十本入十三錢

京城西大門通一丁目（電話長一二九番）
東西煙草商會

品質第一
誠實第一
賣行第一

キッコーリウ
最上醬油
醸造元　仁川港
日本醬油株式會社
京城出張所
京城大平通二丁目電話二四五番

勞働者兵士委員會

露國聯立內閣承認=決議條項

十四日勞働者兵士委員會は聯立內閣承認の決議を爲し且つ政府をして左記の目的を遂せしむる事を決議せり(露都電報)

一、外交を刷新し領土併合償金賦課を求めず且つ民族主義を基として速に平和を締結する事

二、軍隊を民衆化し且つ自由防衛の爲めに戰鬪力を充實する方法を講ずる事

三、社會問題の解決經濟、財政の改革

四、憲法議會を速に召集する事

五、假政府に入閣すべき社會黨の大臣は勞働者兵士聯合會に對し責任を負ふべき事

聯立內閣と閣僚推薦

露都に於ける勞働者兵士會議にてマルガノトヴイツチ氏を法相にチエルノフ氏を農相にプゼシエホノフ氏を郵需大臣に又スコベレフ及びアフクス兩氏を無任所大臣に推薦したり右にて露國聯立內閣の成立は確實となれるものゝ如し(桑港電報)

徐世昌出廬の意無し

徐世昌氏出廬を促すべく特派されたる范源濂氏は十七日夜歸京せるが徐氏は斷じて內閣組織の意なく上京さへも拒絕せり(北京特電)

徐氏の時局收拾策

徐世昌氏は范源濂氏との會見に於て時局收拾策として「一、段內閣維持 二、外交問題を解決したる後內閣改造を行ふべし」との意見を述べ范源濂氏は十八日朝段總理に面會し右の旨委曲復命せり(北京特電)

吉間鐵道

支那政府の計畫

支那政府は吉林より間島に至る迄の鐵道敷設を計畫し吉林政廳に調査方を命せり(奉天特電)

洮昌道尹就任

奉天政務廳長より洮昌道尹に轉じたる金世和氏は兩三日前鄭家屯に到着し十八日より就任同時に遼源鄭家屯交涉員兼任を命ぜられたり(奉天特電)

王世子御見學

李王世子殿下には十九日所澤に赴かれ士官學校生徒と共に飛行場にて飛行機に就き御見學相成りたり(東京特電)

大隈侯爵西下

大隈侯一行は十九日午前九時三十八分下關着關門兩市代表者紅葉會員縣人會員等の出迎を受けて門司に渡りホームにて感想講演を爲し十時四十五分佐賀に向へり(門司特電)

宗社黨殘徒運動

昨年解散したる滿洲宗社黨の殘徒等は蒙匪軍の北方に活躍せるより之と呼應聯絡すべく過般苗風黨なるものを組織したるも蒙匪の南下捗々しからざるより氣勢頗る揚らず依つて二三日前同黨首領王太風(字雲亭)は突然間原より滿鐵列車にて長春に入り目下秘密に運動中なるが右は滿蒙匪首領より或る重要なる密命を受けたる爲めなりと(長春)

東淸貨車增配

寬城子に於ける南滿東淸兩鐵道聯絡貨物使用貨車は從來七貨車に限られたるが最近更に果實輸送車として二貨車を使用することを得るに至り非常に好都合なりしが道回哈爾賓に設立されたる東淸鐵道輸送委員會に滿鐵哈爾賓公所出張所長委員として參加し得るに至りしより滿鐵の主張一層强硬となり每日十五車を使用し得ることに變更されたるにより今後哈爾賓の貨物は從來の如き停滯を見ることなかる可しと云ふ

製糖工事進捗

南滿製糖會社工場敷地は奉天驛の南約十八町鐵道附屬地內に在り該工事は最初事務所、倉庫、工場、社宅等八棟五百六十餘坪の木造假家屋を建築したるが四月初旬より本工場一千二百坪の建築に著手したり本工場は機關室、石灰室、砂糖室、結晶室等より成り高さ五十一尺より六十尺の四階建にて四月中旬煉瓦の積立を開始し已に三十七八尺迄積上げ本月末上棟を行ふ豫定なるが尙ほ倉庫、事務所、社宅等は何れも近く起工さるべく七月中全部の竣工を俟つて機械の据附に著手し八月中に試運轉を行ふ豫定なり(奉天)

本年新設燈臺

伊藤海事課長談

大正六年度に於ける朝鮮燈臺の新設は當局に於て調査の結果江原道注文津燈臺外四燈臺に決定し來る二十五日頃光濟丸は諸材料を積載し其の築設に向ふ事となりたり新設燈臺及び其の設置理由は左の如し

▲注文津燈臺 江原道注文津は竹邊灣燈臺と水源端燈臺の間に位し然も兩燈臺の間は約百十浬の長距離を有するを以て夜間此の沿岸を航行する船舶は少なからず困難を感ずるのみならず同地は朝鮮郵船會社の命令航路寄港地として船舶の出入多きも附近の地勢上夜間の目標となるべきものなきを以て同港を分別する事甚だ難く又暗礁も少なからず爲めに最近船舶の坐礁したる實例あり頗る危險に付燈臺一基を建設する事となり船舶に便益を與ふる事となしたり

▲小每忽島燈臺 慶南小每忽島は朝鮮沿岸沿航船舶の要路に當り附近は小島點在し夜間航行困難なる地なるを以て該島に燈臺を建設し船舶の航行を安全ならしめんとす

▲木浦燈臺 木浦燈臺は木浦對岸の一小島にあり元來榮山江通航船舶と木浦出入船舶の目標として建設せられたるものにして遠距離に達する石油燈なるも湖南鐵道全通したる結果榮山江航路は廢止せらるゝに至り現時に於ては單に出入船舶の目標を爲すのみなるを以て其の光達距離は左して長大なるを要せず故に之を三箇月間整理のアガ式燈器に變更し現在の燈器を他の適所に流用すべし

▲鵜の瀨掛燈立標 釜山港內の鵜の瀨掛燈立標は明治三十八年の建設に係り其の燈器は一週間一回整理を要する舊式の石油燈なるのみならず近時燈器磨耗して其の光力減退し僅に數浬の距離より見得る能はざるに至れり然るに同立標は釜山港に出入する船舶に對し最樞要の燈臺なるを以て光達距離十二浬の最新アガ式に改め其の光達距離を大ならしむると共に整理の手數を減せんとす

▲七發島燈臺 全南七發島は內地と朝鮮西岸及北支那との間を航行する船舶に對し最樞要の地點に當るを以て嚮に燈臺を建設して通航船舶に便せしも該地方は夏期濃霧の襲來頻々にして爲めに船舶の危險に陷る事屢なるを以て更に同燈臺に[illegible]を設け霧中航行船の安全を圖らんとするにあり

農產增殖と肥料問題

肥料の洪水を朝鮮に漲らせむ

王子製紙專務 藤原銀次郎氏談

▲朝鮮農業の現狀 次は私が電氣化學工業會社の關係者として甞て京城まで來る途中、熟々農耕の狀態を窺つて見た感じた事である、之を十年前に比較すれば素より土地の開拓は非常の進步ではあるが、未だ々々何程も餘裕が存するやうである。日本內地の農業は今や精一杯に發達して居る、餘地は殆どないが農法の改善によりて反當りの收穫量は平均して非常に增加して居る、而して朝鮮の農業は槪觀した所、二十年以前に於ける內地農業の程度位で尙ほ幼稚なりと云ひ得られよう、乃で私の思ふには朝鮮の產業殊に米作に對しては、將來人造肥料を大に利用させる必要がある、それも高い肥料を使はせる事はできぬ故、極めて廉いものを供給せねばならぬ、最初は無代で與へる位にして人造肥料の効用を曉らせねばなるまい、兎に角此の肥料を使つて見よ、若し結果が惡くて損があつたら賠償してやる位の事は約束してドシ〳〵振り蒔いてやる、さう云ふ風にして初めて朝鮮の農產增加を期し得るであらう、

▲電氣化學工場 王子製紙會社の苫小牧工場で使ふ電氣の剩餘を利用して窒素肥料の製造を試み好結果であつたので別に資本金五百萬圓の電氣工業株式會社を起して專ら硫安肥料の製造を營む事となり北海道に第一工場、大牟田に第二工場、滿洲撫順に第三工場を起して既に製造に從事して居る事は人の知る所である、今日は窒素肥料の價が騰貴して居る、瓜哇方面の需要が夥しい爲め殆ど製品全部を擧げて瓜哇方面に輸出して居る、最初一噸百二十圓で賣れば結構の積りで居たら、今日では倍の二百四十圓の高値にある、當分南洋方面の需要は減じまいと思ふ、到底現在の工場設備では生產不足であるから、近き將來に五百萬圓の增資を行ひ一千萬圓の會社とする計畫を立てゝ居る、撫順工場の前途は頗る有望である、朝鮮と滿洲丈けでも廣い販路であるが、目下のやうに外國の需要が多くては一寸鮮滿への供給は手が屆き兼ねる、併し元來が肥料であるから、其の値段は安過ぎる位であらねばならぬ、此頃の高値は變態であるべきだ、

▲生產過多を想す 而して製品を安く供給しやうとするには是非共一度は生產過剩を來す位にウント產高を增加するといふ事が必要である、さうして置て安い肥料を多方面に供給し、餘りの分は朝鮮の農民に對して或る方法の下に無代で配付する、私は此の意味より撫順工場の能力を精一杯發揮して產額を增加して置く必要を認めて居る、此の事は或は突飛のやうでもあるが、然かし實行し得れば極めて愉快な事ではないか、製品の高い間は當分會社として大に儲けて置いて、それを以て事業を擴張して硫安肥料の洪水を朝鮮に漲らせたいと思ふ

▲工業樂觀 朝鮮の工業は將來確かに勃興するであらう、內地の資本家は今や朝鮮に注目して居る、此際最も希望する事は朝鮮に於ける當局者が此等企業家に對して充分の好意と便宜を與へて下さると云ふ事である、或は最初の事業に於て失敗する人が出來るかも知れぬ、併しそれは已むを得ない事だ、失敗した人が退いても一度出來た會社は却々潰れるものではない、會社が殘れば之を經營して何時かは成功する人が出來て來る、兎に角朝鮮工業の將來は刮目に値する大勢である、私はこれより撫順大連に行き又朝鮮を經て歸東する豫定です

電報制限緩和

北米及其屬地に於ける時局に基く電報制限中隱語暗號は全く禁止されゐたるが銀行用送金上の對照用として使用する隱語は一語だけ插入する事を得るやうなれりと

東拓殖林進捗

東拓會社にて今春殖林中の咸南德源出張所は多雨のため稍々其の進行を妨げられしも從つて活著の成績良好なるべく近く終了の筈にて殖林主任上倉技師も兩三日中歸京の筈

米價暴騰と平南

平安南道に於ける昨今の米價は玄米在來種上物石十四圓改良種十四圓五十錢精米上物石十九圓並物石十八圓五十錢粳十貫上物在來種二圓八十錢同改良種十貫二圓九十錢にして玄米精米の暴騰は月初めに比し石一圓五十錢方の暴騰を見たるが原因は各地共に現物品薄のため亦一面には內地定期相場の變動によるものなりと云ふ因に某玄人筋の觀測によれば昨今の米價は天井値段なり(平壤)

京城水道の近況

京畿道水道係の調査に由れば昨今の水道配水量は既に約三十九萬立方尺に達せるが由來京城水道の給水最大能力は四十五萬立方尺にして例年に徵すれば漸次暑氣に向ふに從ひ一般給水量は僅かに增加し而かも雨量其他の關係より給水能力に不足を告げ配水量に制限を加ふるの止む無きに至る有樣にて漢江人道橋竣成の曉には無論仁川水道よりの補水を實行する豫定なるが今夏迄には補水覺束なかるべしと云ふ今本年四月中の配水量を觀るに日計配水量合計一千九十三萬立方尺にして一日平均約三十六萬四千三百立方尺を算し四月中最高の日計配水量は十三日及び二十四日の三十八萬五千立方尺當時の氣溫は最高溫度平均約二十二度四分(攝氏)なりしと云ふ

駐劄師團隊長會議

來る二十三日より二十五日まで三日間龍山軍司令部に於て朝鮮駐劄軍各團隊長會議を開き秋山軍司令官、白水參謀長、生井法官、廣瀨經理、佐藤軍醫部長以下各部長竝に各要塞司令官、立花第十九師團長及び各旅團長、聯隊大隊長、各衛戍病院長、兵器廠長等出席し軍隊の狀態、兵卒教育の狀況及び改善方法其他事務上の會議をなす由

府稅告知書發送

府稅務課にては大正六年度第一期府稅告知書を十七日より十八日付にて全部發送したるが此の稅額九萬九百八十七圓七十四錢にして內戶別稅二萬八千百九十四圓營業稅四萬九千百五十三圓雜種稅一萬四千二百六十五圓を算せり之を內鮮人等に區別すれば戶別稅內地人一萬二千七百三十七圓鮮人一萬四千七百十八圓外國人七百三十七圓、營業稅內地人(法人も含む)三萬六千二十二圓鮮人一萬一千四百六十一圓外國人一千五百六十九圓雜種稅內地人八千五百六十八圓鮮人五千三百十九圓外國人三百八十二圓にして去年度に比すれば多少の增加は有りたるも大體に於て大差なしと云ふ

京城軍人會總會

在鄉軍人會京城分會にては愈々廿日午後一時より奬忠壇に於て定期總會を開催し左の順序により擧行すべく當日は長谷川總督も臨場の筈なれば盛大なるべく出席の會員は住所氏名記入名刺携帶せらるべしと

▲分會長開會辭▲勅語奉讀▲會務報告▲支部長訓示▲來賓祝辭▲分會長答辭▲評議員改選▲銃劍術擊劍徒步競爭▲宴會▲解散

李子爵東上

子爵李秉武氏は王世子殿下士官學校卒業式に參列の爲め往復二週間の豫定にて二十日午後七時五十分南大門驛發列車にて東上の筈

岩田內務部長視察

入京中なる奈良縣內務部長岩田衛氏は十九日昌德宮秘苑及び景福宮博物館等を視察せり

勅使河原法院長

平壤地方法院長より京城地方法院長に榮轉したる勅使河原健之助氏は既報の如く十九日午後七時三十分南大門驛着列車にて著京天眞樓に入れり

入澤部長歸任期

入澤京畿第一部長は山內書記外三名を隨へ去る十七日朝京城出發春川加平兩郡管內の郡事務並交通狀況視察中なるが二十日午後歸任の筈なり

教育俱樂部家族會

京城西大門教育俱樂部にては二十日午前十時より春期總會家族會を開催する由

赤平署長赴任期

京畿道警務部勤務より慶尙南道晉州警察署長に轉任を命ぜられたる赤平氏は來る廿四日頃出發赴任すべし

人事消息

▲橋田虎之助氏(平壤覆審法院長) 十九日夜入京南尾へ

▲藤原銀次郎氏(王子製紙專務) 十九日夜[illegible]

▲佐々木慶南道長官 二十日朝入京南尾に投宿の筈

▲吉田中將(京城憲兵隊司令官) 十九日開城へ

[illegible]座談

鄭[illegible]事件の[illegible]一下飛天動地の大活劇を演[illegible]手兵を提げて直に奧地深く入り込まんとした佐藤[illegible]の時[illegible]通過して內地に歸つたが[illegible]な人丈其の[illegible]在して居た時▲其ら血ッ氣盛りで[illegible]に戰爭を控へて居たから元氣[illegible]陸分遊びたかつた▲陸が遊ぼうにも[illegible]はなしさりとて[illegible]に借る[illegible]らず思案の末近[illegible]待命になつた[illegible]主[illegible]の處に行つた▲[illegible]して呉れと云ひ難いので「紅葉もアムキムの名殘りの木枯に散りて淋しき山の懐」とやつて見せた▲然るに[illegible]君一向意味が判らぬやうで頓と金の話にならぬ▲其處で最一とつ「しばらくの眺めをかせよ七八の黃金色そふ菊の花びら」とやつて見せた▲すると流石の逃鰹君も判つたものと見へて一圓紙幣入枚を抛げ出してサア持つて行き給へ▲早速其れを懷中して大に發展したものだよハツハヽヽ▲將軍の歌は却々堂に入つたものがある▲大概の事は歌でやつ付ける處は何うして隅へは置けぬワイ▲嘗て東京に入つたと云へば野田大塊翁は盛に鬪揚を東京でもやつて居る相だ▲而して意氣揚然として曰く「▲朝鮮流行の[illegible]は故大院君の流れを酌む亡國の[illegible]だが▲俺のは與國の[illegible]だから太かタイ」▲成る程萬翁の樣に見へるとはまさか▲政友會の態度に就て或人が質問すると▲大塊一流の一句を示し『無言無說一蓋の蘭真般若』▲後にて普通の人には判らんタイ『禪だから一寸其の意味を反問すると『禪だから一例に依り大塊をゆすぶりつゝテツハヽ……

鞍山站の昨今

▲市街設計と土地[illegible]

[illegible]立山附屬地內[illegible]坪を加へて既に略その買收を了し則ち工場市場地として永久的性質のものとなす筈なれば一時的に合せの建築の如きは絕對に許可せられざるを以て[illegible]中なりし假宿舍[illegible]屋に住ひ中には信玄袋を下げて每日迂路々し居る者もあり殊に立山驛を起點として止まりたる土地買收の[illegible]者[illegible]し滿鐵にても聊か持て餘し[illegible]

▲土地の貸下に就ても希望[illegible]鐵に買收せらるゝに至るべし即ち何れより看るも鞍山站製鐵工事の今日は[illegible]的のものにして[illegible]貸下は約二箇年位にして其は買收地も一部約一萬年なりとも云ひ近く[illegible]手せば鞍山、立山方面は此の製鐵事業の爲めに[illegible]

[illegible]礦及び骸炭工場等の事務所設立に著[illegible]

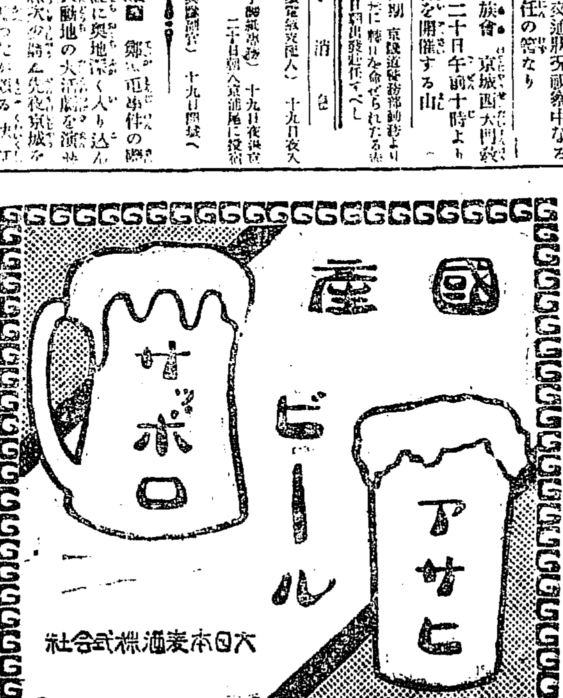
[illegible]大詭譁あり即死二名重輕傷者十餘名を出せり(大阪特電)

コークス値上廣告

コークス 砂割 共に付き二圓値上 叺賣壹俵 七拾五錢

右の通り五月十八日より値上致候間以紙上謹告仕候

京城電氣株式會社 瓦斯コークス一手販賣 同用器具販賣 京城長谷川町五十八番地 南豐商會 電話一九二六番



鑛山用 漁業用 カーバイト 酒精 燒酎 各驛各港揚本社直積御注文に應す 釜山港 福榮商會 電話 一一三 一一九 三三

中流の模範家計 一、八月收二十七圓の小學教師 八月收三十三圓の銀行員 一、八月收九十二圓の朝鮮官吏 八月收五十圓の中等教員 一、八日給四十七錢の機械職工(以上五家庭の模範生活振)

▲家庭の外に於ける婦人の新任務(山脇博士) ▲私の感心したる佛國の主婦氣質(鳥居龍藏) ▲子供の躾け方は如何にすべきか(淺田夫人) ▲新婚の愛嬢に送つた母親の手紙(博士夫人)

夫婦和合の十秘訣(一說子 金の女)

▲私が相談された若き妻の煩悶(白井翁) ▲虎や猩よりも恐ろしい蠅の害毒(谷澤博士) ▲たつた一晚で死ぬる乳兒の脚氣(竹馬) ▲上品で收入の澤山な刺繡の內職(記者)

古今名婦鑑…(野口復堂)

▲誰にも手輕に出來る浴衣の紋染(さく子) ▲婦人の內職に適するレース編方(加藤夫人) ▲手拭一本で出來る疑冷えしらず(せい子) ▲廢物の小布で出來る大正式巾着(清子)

脚氣を全治した經驗(六年間の脚氣を全治す…彩子)(食療法で脚氣を根治す…白雲女)(照子…死せんとした脚氣を根治す)

▲手輕で美味な惣菜料理の拵へ方(成田夫人) ▲悲慘の主人公浪子も給ものがたり(石井昌伯)

讀者の運命判斷

六月號 十七錢 送料一錢 半年分 一圓五錢 一年分 二圓五錢 出來 東京家政研究會 東京麴町振替三三七八六

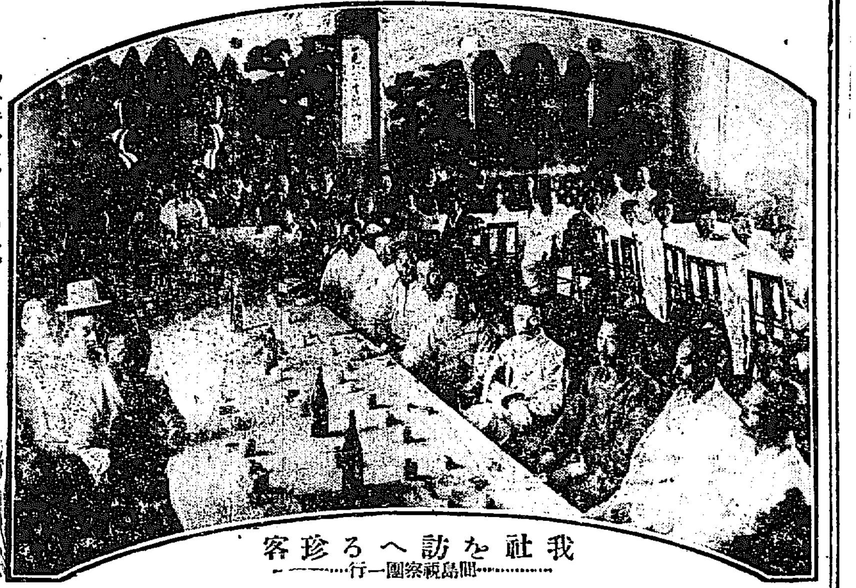
主婦之友

三和高麗燒は宮內省御用の光榮に浴したり 香爐 花瓶 香盒 茶器 菓子器其他種々

朝鮮特產 三和高麗燒 海老の精

海老の精は(風味佳良、滋養分豐富にして貯藏久しきに耐へ御土產として絕好の珍品に御座候)

三和高麗燒 海老の精 發賣元 朝鮮鎭南浦 富田商會



我社を訪へる珍客
……間島視察團一行……

◉京日社の見學も故郷への土産にと

間島視察團の本社訪問
輪轉機と寫眞班の機敏とに興を催す

間島の視察團一行は十九日の午後三時半より本社來觀、何れも來靑閣の廣間に打ちくつろぎつゝ茶菓にお酒に充分の歡をつくして歸つた席上阿部本社長は一行がよく科學的文明の

お土産さすべしなど物語る人もあつた、一行は猶は寫眞班の撮影せる來靑閣の寫眞を見つゝ「自分の顏が恁麼に早く出來あがつたのか」と打ち興じて居たのも愛嬌であつた

見學あらん事を

希望したるに團長李熙惠氏はこれに答へて一場の挨拶を試みわれ〳〵一同は入京以來眼にふれ耳に聽くごとろ一として感嘆せざるなきの有様にて見學せることの實行し得らるべきことは歸鄕の上早速試むる積りなり

入京以來結髮を

現に一行の中には斷りて鳥打帽となれる者さへあれば われ〳〵の感激の程度はこれにて御推察を乞ふと得意即妙の挨拶を試みしも愛嬌であつた、一行は更に社員の案内にて編輯室、整版部、寫眞部、機械部等巡覽

何れも感興深き

様なりしが殊に輪轉機の印刷には餘程の興味を感ぜしめたのであつた、退出は午後五時半、中には來靑閣に掲げたる長谷川總督の寫眞及び寺內前總督の揮毫、並びに李王殿下の筆になる『文明』の文字等を手帖に記し

日報社の出來事

は總て自分の胸にとめて間島に歸る

◉若き女の投身

京城薫井洞の共同井戸水深約二十尺に十七日午後十時五十分頃投身したるものあるを附近の者が發見し急報に依り鍾路警察署員出張鍾路三丁目居住車夫吳仁洙（二九）と協力して引揚げ取調べの結果 昌信洞藥種商柳元奎の妻劉順禮（二〇）といひ同日實家なる薫井洞黃鳳植方に赴く途中投身して自殺を企てたるもの、如く應急手當を加へしかば生命に異狀なかるべしと同女は大正四年四月中五奎の妻となりしも常に折合はず屢々無斷家出することあり何件の井戶には既に投身自殺を企てしもの數名ありたる由にて附近の者は其の井戶を嫌ひ居れりと

◉九人組で詐取

慶北尙州郡西面古谷里黃義建（二九）外八名は共謀し義建の祖父及び實父の印章を僞造し四月十三日慶北尙州郡尙州面城下里居住金貸業川合由太郞方に立越し富豪の若旦那義建が土地買收資金調達の爲め來れりと詐稱し川合に一千圓の用立方を申込み僞造の印章を押捺し借用名義にて金六百圓を詐取し九名連れにて水原其他にて遊興消費したることを水原警察署にて探知し頃日全部を逮捕し取調べの上十二日檢事局へ送れり

◉若葉の日曜
遊び場所は何處か

からくと晴れた五月空の下、春に醉ひしれたものゝみなを蘇がへらせねばおかぬやうに

▽初夏の風が、輕衣の袖を嬲ぶる頃になつた、若葉の日曜の一日を何處へ遊ぼう、花の頃には見向きもされなかつた淸凉里は歡びに躍るやうな新綠の裝ひを凝らして來た楊柳窓に垂るゝ綠のトンネルを

▽薫風を衝いて走る爽快な心もち、朱色の垣に繞られた王妃の墓の奥には藪鶯が搾りに鳴いてゐる春によく更に夏に入つていよ〳〵趣きの深い南山漢陽公園は山懷ろに入る程に新綠の樹立蓊鬱として葉櫻の

▽色鮮かなるものさへある奬忠壇の芝草はます〳〵靑くなつた亦漢江麻浦の舟遊び龍山孝昌園の新綠などいづれも杖を曳くに十分なものがある

◉全羅丸船長審判

三月二十八日江原道水源端附近にて沈沒せし朝鮮汽船全羅丸船長戶川孫四郞氏に對する海事審判は二十二日遞信局內審判廷にて開く由

◉黃金町の小火

京城黃金町三丁目二百十番地菓子製造業佐藤眞吉方の菓子乾燥室より十九日午前一時頃發火し大事に及ばんとせるを發見し器具を燒燬したるのみにて即時消止む

◉「ポーリン」上場
黃金館の大寫眞
由井正雪と共に
本紙讀者の割引

黃金館にては十九日より特別興行として天活が特に輸入せる冒險活劇ポーリンを上場する事となれるが該寫眞は冒險俳優として著名なる米國パテー會社專屬の女優パール、ホワイトがポーリンに扮し驚天動地の大活躍を試みたるものにして十篇廿卷に亙る大寫眞たり、此の內第一回は一二篇四卷を上場し、更に來週より連續上場する由なり然して此の外舊劇由井正雪全六十五場にて近來の大寫眞なれば是れも大喝采を博すべく然して入場料は一等四十錢二等三十錢三等十五錢なるも本紙讀者にて別に頒布せる割引優待券持參の向きには二十錢、十五錢、十錢に割引すべしといふ

◉鮮銀の運動會

朝鮮銀行にては來る二十七日麻浦舊龍山間の廣場にて行員全部の運動會を開く由にて其の準備中なりと

◉松風會春季大會

京城松風會にては今回觀世家元より山中師範を聘し從來より一層稽古に勵む山中氏披露の爲め本町初音に於て春季謠曲大會を開催する筈にて其番組左の如し

◉京城サモワール會

◉藥事集談會

夏場所

▲九日目の勝負（十九日午前一時着電）

勝		負
稻葉嶽	友渡り	友の浦
鎭西山	太刀嵐	東雲
荒玉	朝日山	浦の花
琴ケ浦	大門岩	龍ケ崎
三杉磯	大の高	福柳
淸瀨川	石山	源氏山
一港	鳴門洋	常の花
宮城山	紅葉川	大鳴門
朝潮	逆鉾	大錦

▲中入後

勝		負
大汐	八甲山	逵の矢
瀬高山	鶴渡	藤の川
駒泉	若島	小常陸
千葉崎		對馬洋
土州山	釋迦嶽	
黑瀨川		九州山
宇都宮		伊勢濱
栃木山	眞砂石	

右の內▲琴ケ浦に大門岩は一寸突き合ひ大門左を差して肩透しを引くを琴磯すと共に附け入つて押切る

大の里に龍ケ崎は烈しく突き合ひ互ひに引きかけ合つて土俵一杯に荒れ廻る內龍敵の右手を引きかけ右足を渡し差し込んで寄り進むを三杉磯に大の高は右を差し込んで寄り進むを三杉磯に大の高は右きを差して寄り進む

▲十日目の取組

源氏山（大門岩）　千葉崎（藤の川）　栃木山（釋迦）　黑瀨川（對馬洋）

夏場所成績表

[illegible]

◉土方の大喧嘩

十八日夜大倉櫻島鐵工所にて土方の

店員募集
年齢十六歳より二十三歳迄身體健全なる者得意廻りに至急入用確實なる保證人を要す
京城黃金町一丁目　三巴商會

新綠と郊外
花期既に過ぎ今や新綠滿山野に包まれ溪流鮮の衣は岩を嚙む水勢快自ら詩趣を湧く快なる寫眞機を携へて快此間を逍遙す可らずや又名狀す
家庭に！郊外に！今や唯一の器となりぬ
寫眞機
支店（京城南大門通三）　本店（大阪市心齋橋）　上田寫眞機店

京日案內

名刺印刷入用　長谷川町　鼎商會　33

官吏教師へ秘信用貸便　大和町　30

有望なる實業店至急賣り渡したし（姓名在社）19

萬年筆……修繕と販賣　97

古本・古樂器買受と立替　本町ウツボヤ書店　963

古本　本町ウツボヤ書店　964

勸業債券買入　京城太平通二ノ三六　13

店員採用　年齢三十未滿中學程度卒業者　京城支店　31

探し犬　色、赤、小犬、耳長し、尾短く、御屆け下されし方には相當の御禮す　32

入院　狂犬病豫防注射　小川家畜醫院　京城明治町一丁目　27

恩給　年金　長期即時　29

恩給　年金　西村商會　15

江州屋本店

貸自働車　片道四圓　京城前八時　自働車商會　70

特別大興行
破天荒
當る五月自二十日至廿六日（七日間公開）（日曜日晝夜二回）
連續公開　天活會社秘藏の三大映畫

徹頭徹尾稀代の大冒險大活劇
ポーリン
THE PERIL 5 OF PAULNE
全十篇二十卷の內四卷上場
……有名なる冒險俳優の人氣投票にて第一位を占たる米國パテー社專屬パールホワイト嬢のポーリンに扮し電光石火危險の早業は思はず手に汗を握らしめ唯だ呆るゝばかりなり……

有松燒衣氏脚色
新派悲劇　盡きせぬ緣　十五場
……戀に狂ふ華族の令孃墮落せる現代華族の裏面をあらはし女の美點と弱點とを表したる涙の多き教訓大悲劇

未曾有の大寫眞
舊劇　偉傑　由井正雪　六十五場
―慶安太平記―
丸橋忠彌　澤村四郞五郞　由井正雪　市川延十郞
……如何に撮影に苦心したるか近來稀なる大道具大仕掛の大撮影寫眞なり

寫眞最長尺に付正午後五時卅分〻映寫
實寫五時三十分〻　活劇八時〻
滑稽五時四十五分〻　新派九時廿分〻
舊劇六時十分〻
御見落しなく御早來願上候
本寫眞上場中に限り從來發行の招待券及特種入場券は御斷申候
本興行中に限り　一等四十錢　二等三十錢　三等十五錢　軍人學生半額
黃金館

怒濤の月

百七十

小林蹴月作　武内桂舟畫

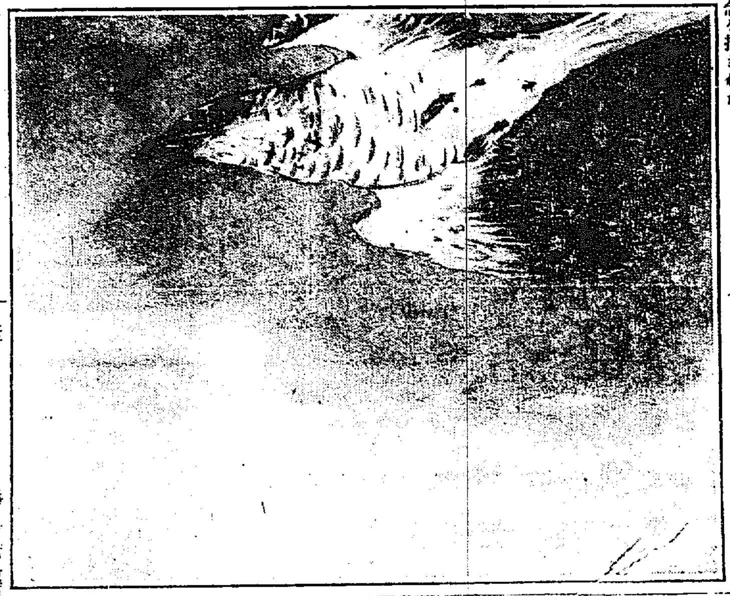
血潮の雲「大團圓」

「閣下、その事は、何方でも宜いので御座います。」

幸三郎は、勿論絹代に對する不滿からでもあらうが、[illegible]切らぬやうな生返事を爲て居た。

「何方でも好いとは？　倉橋君、是程迄に言うても、君はまだ乃公と絹代との間に、一生涯拭ふ可らざる醜交でもあつたものと信じ詰めて居るんぢやね。」

男爵は、最早復び繰返さじとやうな最後的の強い聲と鋭い眼とを以て念を押された。



「いや、必ずしも左樣な次第でも御座いませんが……閣下、私には總ての物事を私の意志通りに爲る事の出來がたい事情があるので御座います。賢を申しますと、私の描き上げました此の大怒濤の底には、四六時中怨みの眼を睜り、悲みの叫びを立てつゝ私の進退を監視して居る所の一個の若い女があります。私は譬ひ、絹代に對する一切の疑ひが晴れたと致しましても、到底親々の約束に從つて、絹代と公然の夫婦になる事は、出來能ひませんので折角ながら此の上は、斷じて絹代に關する事は、善惡共に御斷り下さらねやう、切にお願ひ致す外は御座いません。」

「はての、左樣な女が此の怒濤の底に沈んどるのかの。乃公には頓と影さへも見ゑぬが……絹代、お前には多少その影が見て居んぢやらうね。」

男爵の斯う言はれたのは、つまり絹代その者の心には、多少思ひ當る節がなくてはなるまいとの意を、ほのめかされたのであつたけれども、絹代には眞個そんな事の思ひ當るべき筈はなかつた。唯幾分か『然でもあらうか知ら……』と思はれたのは、何時ぞや千束町の火事を脫け出し、入谷田圃の畔路で氣絕した時、夢ともなく現とも分ずに一人の若い女に手を引かれて、曾て見た事もない怒濤の斷崖に爪立ち、既での事龍宮の御殿とやらへ飛び込まうとする刹那を、彼の八五郎主從に呼び活けられた事があつたが、その時の怒濤の凄じさと云ひ、斷崖の恐しさが、何處となしに此の屏風の畫と似通つて居るやうな感じが爲た丈の事である。絹代は訝しさうに顏を擡げて、稍少時、金屛風の畫面を凝視めた。是ぞ我が懷かしき良人の丹精に成つた大作には違ひないのであるが、今現に其の良人と膝と膝を突き合はして居ながら「他人になれ」と宣告せられた果敢なさを思へば、魂も消ね、腸も寸斷るゝばかりの悲哀が泌さに胸元へ押迫つて、只さへも力なき病苦の身躰には、もう語を發すべき元氣もなかつた。怒濤の底に女の影が潛んで居やうと居まいと、そんな事は固より自分の知る所ではないが、あらゆる迫害に遭ひ、悲運の及に責められて幾度となく、死の苦痛を忍んで、今日まで立て通して來た操の一念を認めて呉れずに、良人は飽まで自分の操を疑つて居ればこそ何の彼のと謎のやうな口實を設けて自分を追ひ退けやうとは努むるのであらう？　いや〳〵、正しくそれに違ひないのだ。もう是までゞある。疑はゞ疑へ！　妾の潔淨な心は、觀音樣がちやんと見て居て下さる筈である。

「……阿兄さん、郎君は飽まで妾の操を疑つてお在でせうが、妾は決して郎君を疑つては居ません。妾は死んだ後でも必ず〳〵郎君の許婚の絹代ですからねッ。」

絹代は、帛を裂くやうな斷れた悲痛な聲を發して、只ツた一言斯う叫んだかと思ふと、つと席を起つて屛風の側へ差寄つたが、何時如何にして隱し持て居たのか、一挺の西洋剃刀を取出すと等しく、すはと我が左手の動脈を目蒐けて一文字に掻ッ切つて了つた。

「大變！　絹代、お前はッ。」と、男爵は驚いて膳を飛び越ね、手早にその西洋剃刀を捥ぎ取られたのであつたが、素人の悲さには、肝心の動脈切斷の急處が分らぬ。滴なす血潮は、見る〳〵絹代が瘦せこけた全身を紅に染めなし、剩さへ、迸しりの勢ひは餘つて、皎々たる銀泥の大月にまで血の雲が掛つた。

慌てゝ繃帶を施したり、醫者を呼び迎へたりした頃には、絹代はもう現世の人でなかつた。絹代の自害した西洋剃刀は、嚢に幸三郎が男爵邸內へ取落して行つたそれである事が私に分つたのである。

「閣下、飛んだ事を致しました。私が餘りに偏狹に失した罪で御座います。二人の女を見殺しに爲て出來上つた此の怒濤の月は、終に女の血に塗れて無用の長物となつて了ひました。閣下が若し私に此の屏風を下さいますれば、私は永久に此の怒濤と此の血の月とを眺めて、獨身に終りたい覺悟で御座います。」

幸三郎は、愁然として絹代の死顏を覗入つて、眼を瞬きながら云つた。

「いや〳〵、罪は君ばかりぢやない。貴族の身を忘れ、利慾と淫樂とのみに耽つた乃公こそ寧ろその大半を分たねばならんぢやや。」

男爵も、今更の如く憮然として兩腕を拱かれたのであるが、闇に灑ぐ五月雨の空には恰度此の大悲劇の幕切れを知らすかのやうに杜鵑の聲が聞ねた。而も二聲……！

その後半箇月ばかりの後、直則男爵は幸三郎の眞實なる請を容れて、袖子の復歸を許し、同時に正式を經て夫人の位置に据ゑられたのである。彼の殘酷なるお久も、絹代の死に依つて心から前非を悔ひ、且袖子の生母たる事が分明したので、公然ではないが、折々男爵邸へ出入して居る。男爵と成金蒸原との交際は、全然絕たれて了つて、事業失敗後の整理も漸く緒に就いたらしい（大尾）

メリヤス專門　京城本町二丁目電話六一四番　尾張屋メリヤス店

□京城俳句會　第五回　六、五、二一

渡舟傾けて水飲む牛や靑嵐　橙黄子
靑嵐帆高く家は堤　同
靑東風や大宮に倖揃へたる　耕伯
衣更へて藥水を汲む愁人よ　靑丘
靑嵐や雲の色見て撮る寫眞　草綠
二階より渡舟呼ぶ人や靑嵐　竹水
靑嵐や女の連れて猛き犬　北星
靑嵐海より戾る川蒸汽　容堂
靑嵐の樹蔭を挾く生徒哉　田打夫

靑葉　破翁
新市街屋根越しのポプラ靑葉かな
長江の迫る處靑葉船がゝり
政會の塔靑葉の中を擢んず

新刊紹介

▲朝鮮農會報（五月號）　歐洲戰亂と農業（人見次郎）朝鮮產玄米中の不純物に就て（山本[illegible]）の二論說の他栽培法（井良小次郎）遺傳學の農藝に及ぼす影響（早月護）農藥に關する迷信拙論（小林林藏）等の論文を揭ぐ（二十錢京城道水原郡日輪面[illegible]）

▲東方時論（五月號）　戰爭參加問題を中心として見たる支那最近の政局（吉野作造）關稅改訂の日支兩國に及ぼす損失を論ず（東則正）伯林バグダッド政策に對する東洋に於ける史的經濟的見地（中村德吉）等は時局に際し萬人必讀の好字にして[illegible]大波動（[illegible]）露國革命と靑年思想（尾原敬堂）は思想界に於ける一大文字なり其他諸願令公布に就て（安達元之助）ゴーリキイと其の藝術（西宮藤朝）等見るべきもの少なからず（三十錢東京牛込加賀町二ノ五共社）

▲歐洲戰爭寫眞帖（臨時軍事調査委員編纂）　卷頭には歐洲戰爭戰況一覽圖を揭げ次で交戰各國の戰前及戰後兵數の比較、使用飛行機及自動車總數の比較、一日の砲彈製造數及射耗數の比較、戰費總額の比較、一日の戰費等を圖示し更に戰場に於ける最新式武器及其の使用成功並に各國後方勤務狀況其他の寫眞五十六葉を以て一卷とせり用紙の精良なる印刷の鮮明なる而して點綴及配列の秩序的なる流石軍事調査委員の編纂たるを頷かしむ（四十錢東京麴町區平河町[illegible]小林又七）

▲處女文壇（創刊號）　文學の鑑賞（本間久雄）何よりも先づ戀へ（中村星湖）實感と想像（川路柳虹）沼き婦人と歌（[illegible]）美と戀愛（ワイニンゲル）貧しき者の日記（秋田雨雀）老刑囚の悲しみ（ヒエールロチ）日のいろ（素木しづ）及牧水其他の短歌並に諸家の論文散文詩歌小說等雅なる發達を策む（十五錢東京神田表神保町三其社）

▲近代藝術（創刊號）　文藝復興期以後の近代思想を根底とし背景とせるあらゆる近代藝術の研究及び紹介を目的とし同時に評論小說戲曲詩作[illegible]の直接關與者を社友とし其の寄稿を揭載せり本號には牧水の短歌、[illegible]の小說戲曲其他十篇を收む（二十三錢東京牛込[illegible]三ノ二八共社）

▲女の世界（五月號）　或あつて猛からぬ女（[illegible]）安機志望の不心得を論ず（帝柳有美）[illegible]の身の上（[illegible]）ヒステリーの新研究（[illegible]）及時代和五組比較點取表、大正婦人[illegible]、小說[illegible]等本誌獨得（二十三錢東京[illegible]之世界社）

▲黑潮（五月號）　耕願令公布、對支外交を難ず（社說）露國革命の眞相（長瀨鳳輔）列國經濟界の新現象（若田知之）天才の文化的意義（北吟吉）家庭及婦人の位置（山田伊三郎）女子不潮期の內的知化（[illegible]）等の外創作には小川未明の[illegible]のぼたんを收む（三十錢東京麴町區內幸町一ノ五[illegible]通信社）

▲少年俱樂部（六月號）　錨の心（江見水蔭）[illegible]（野尻抱影）[illegible]（齋藤彌太郎）爪切草の蔭（大川白雨）[illegible]（弓塚豪雄）[illegible]（大倉桃郎）自動車の不思議（太刀美）天狗（高橋一雨）故郷つゞき[illegible]等の興味深く有益なる好讀物あり（十六錢東京本鄕駒込坂下町四八大日本雄辯會）

仁丹活用
○運動散步の時仁丹
○遠足旅行の時仁丹
○息切咽渴の時仁丹
○一寸一服の時仁丹
○煙草の代用に仁丹

今が外出の好季節
手にく仁丹忘れずに行け〳〵山へ行け川へ
仁丹召せば愉快百倍

金言
愚者は言葉を弄し賢者は聞くにあらざれば答へず
俚諺

おゝうい、匂ひ！
流石は世界で一番信用のある
金鷄香水
聞きしに勝るいゝ匂ひ

店員至急募集
年齡十六歲より二十歲迄但市內に確實なる保證人を要す
龍山漢江通一三　電話四五五番
龍山堂書店

まちや
支那領事館前通　川添町二丁目八十七番地
南質店

うなぎ
目下上物澤山入荷致居候間本年も倍舊の御用命奉待入候
陸軍御用達　川魚鳥類屋問
宇田商店
龍山元町四丁目漢江河岸　電話二五番

魯桑種子　土佐本場　最特撰　一升四圓五十錢　一斗四十二圓
魯桑種子　土佐本場　特撰　一升三圓七十錢　一斗三十五圓
魯桑種子　取引方法　一切前金
忠南鳥致院　朝鮮興農園　（振替京城三七番）

最新刊

書名	著者	定價
補珍朝鮮行政警察法規	柴崎武夫	[illegible]
歐州大戰と日本の將來	山口志誠	一、八〇
論家哲學本義	內田正	一、〇〇
ロッス社會心理學	高部勝太郎	一、四〇
大正六年職員錄	朝鮮總督府編	五五
小作證帳	松本恒吉	六〇
覺え易き算術の解方	岡田昇一	六五
正式算術教授目修	[illegible]	八〇
句佛上人	沼波瓊音	一、〇〇
教へる人學ぶ人	川田正澂	一、〇〇
又に観めて	新渡戸稲造	一、三〇
女の務むべき道	嘉悦孝子	八五
日蓮全集	[illegible]	二、〇〇
新古今集 古今集 合本	木田吉太郎	九〇
天下の糸平	高橋淡水	七〇
新釋句撰川排短の人々	岡田忠次郎	七五
北原白秋 [illegible]	北原白秋	六〇
草合	夏目漱石	一、三〇
銅と亞鉛	[illegible]	一、〇〇
鳴雪俳句鈔	內藤鳴雪	三五
美文の作りやう	吉川[illegible]	四五
小野名人將棋秘訣	小野五平	六〇

京城本町一丁目　大阪屋號書店

花柳病外科專門
梅毒　睾丸病　淋病　肛門病　泌尿生殖器病　皮膚病　婦人病　神經衰弱　ヒステリー
京城南大門通殖産銀行裏
司生堂醫院

亡　銓　葬儀の際は御會葬被下難有御禮申上候
五月十九日
妻　富增俊子

商況　大阪株式特電　▲現物界